

授業科目名： 社会福祉学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村山浩一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉学（職業指導を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の原理、歴史、思想・哲学・理論の要点を説明できる。 ・現代の社会問題の概要と福祉政策の基本的な視点について説明できる。 			
授業の概要			
<p>本講義は、後期に開講される「社会福祉学概論Ⅱ」とあわせて社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格の取得に必要な指定科目である「社会福祉の原理と政策」に該当する。「社会福祉学概論Ⅰ」では、社会福祉の原理、歴史、思想・哲学・理論、福祉政策の基本的な視点など、社会福祉学の基本的な枠組みについて解説していく。</p>			
授業計画			
第1回：本授業のガイダンス / 社会福祉の原理（1） 社会福祉の原理とは何か			
第2回：社会福祉の原理（2） 社会福祉の原理はいかに問われてきたのか			
第3回：社会福祉の歴史（1） 社会福祉の歴史を学ぶ視点			
第4回：社会福祉の歴史（2） 欧米の社会福祉の歴史的展開			
第5回：社会福祉の歴史（3） 日本の社会福祉の歴史的展開			
第6回：社会福祉の思想・哲学・理論（1） 社会福祉の思想・哲学			
第7回：社会福祉の思想・哲学・理論（2） 社会福祉の理論			
第8回：社会福祉の思想・哲学・理論（3） 社会福祉の論点			
第9回：社会福祉の思想・哲学・理論（4） 社会福祉の対象とニーズ			
第10回：社会問題と社会構造（1） 現代における社会問題			
第11回：社会問題と社会構造（2） 社会問題の構造的背景			
第12回：福祉政策の基本的な視点（1） 福祉政策とは何か			
第13回：福祉政策の基本的な視点（2） 福祉政策において重要な概念①（自由と平等、自立と依存）			
第14回：福祉政策の基本的な視点（3） 福祉政策において重要な概念②（フェミニズム、アンチ・レイシズム、インターセクショナリティ）			
第15回：授業のまとめ			
定期試験は実施しない			
テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』中央法規			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 レポート（50%） 授業内小テスト（50%）			

授業科目名： 社会福祉学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：河野高志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉学（職業指導を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、社会福祉の原理と政策について解説するものである。授業の到達目標は、社会福祉に関するキーワードの意味や内容、福祉制度の動向と課題、日本や諸外国における社会福祉政策の概要について基本的な説明ができることとする。			
授業の概要 本講義では、①福祉政策におけるニーズと資源、②福祉政策の構成要素と過程、③福祉政策の動向と課題、④福祉政策と関連政策、⑤福祉サービスの供給と利用過程、⑥福祉政策の国際比較について解説する。なお、それらを踏まえつつ、福祉専門職としての心構えや利用者への関わり方、福祉政策と福祉実践における福祉専門職の役割についても解説し、職業としての福祉専門職のあり方を指導する。			
授業計画 第1回：福祉政策におけるニーズ 第2回：福祉政策における資源 第3回：福祉政策の構成要素 第4回：福祉政策の過程と評価 第5回：福祉政策の動向と社会福祉基礎構造改革 第6回：福祉政策の動向と地域共生社会 第7回：福祉政策の動向と課題 第8回：福祉政策と関連施策（保健医療政策、教育政策） 第9回：福祉政策と関連施策（住宅政策、労働政策、災害政策） 第10回：福祉サービスの供給部門・主体 第11回：福祉サービスの供給と利用の過程 第12回：福祉政策の国際比較の視点と欧米の動向 第13回：福祉政策の国際比較の視点と東アジアの動向 第14回：まとめ（職業としての福祉専門職のあり方） 第15回：まとめ（今後の社会福祉の展望） 定期試験			
テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』中央法規			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験60%、授業内レポート40%

授業科目名： 高齢者福祉論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本郷秀和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>以下の点を説明できる能力を身につける。（１）高齢者と少子高齢社会の状況 （２）高齢者の生活実態と社会環境 （３）高齢者（保健）福祉の歴史と理念 （４）介護保険制度（サービス体系・種類を含む） （５）高齢者福祉の関連制度 （６）高齢者と家族の支援と関係機関・専門職の役割と実際</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、社会福祉士等のソーシャルワーカーにとって必須知識となる高齢者福祉について幅広く体系的に学習する。高齢者に関する基本理解（全体動向と生活問題、身体面、精神心理面、社会環境面）と福祉支援の方法、介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法等の高齢者関連の法制度と支援組織、高齢者保健福祉サービスの提供体制等を学習する。テキストの目次に沿って展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、老化を感じる時とは、高齢者と少子高齢社会</p> <p>第2回：高齢者と少子高齢社会</p> <p>第3回：高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境</p> <p>第4回：高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、高齢者（保健）福祉の歴史と理念</p> <p>第5回：高齢者（保健）福祉の歴史と理念</p> <p>第6回：介護保険制度1（成立の背景）</p> <p>第7回：介護保険制度2（保険者と被保険者、要介護認定までの流れ）</p> <p>第8回：介護保険制度3（介護保険サービスケアマネジメントと居宅サービスの概要）</p> <p>第9回：介護保険制度4（介護保険施設の概要と介護予防・日常生活支援総合事業）</p> <p>第10回：高齢者に対する関連諸制度1（老人福祉法、高齢者雇用、日常生活自立支援事業）</p> <p>第11回：高齢者に対する関連諸制度2（成年後見制度、高齢者虐待防止法）</p> <p>第12回：高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割1 （高齢者と家族支援に係る行政、独立行政法人と専門職等の役割）</p> <p>第13回：高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割2 （高齢者支援に係る社会福祉法人、NPO法人、医療法人の概要と専門職の役割等）</p> <p>第14回：高齢者と家族等に対する支援の実際 （高齢期の終末期ケア・認知症高齢者と介護家族に対する支援等）</p> <p>第15回：全体のまとめ、到達目標確認のための小テストと解説</p>			

定期試験：実施しない

テキスト

- ・川村匡由編、『入門 高齢者福祉』ミネルヴァ書房（2023年3月）

参考書・参考資料等

- ・辞典：九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社、2022年2月、3630円

学生に対する評価

- ・授業のテーマ及び到達目標における目標について、①ほぼ完全に説明できる（90～100%）、②おおむね説明できる（80～89%）、③ある程度説明できる（70～79）、④最低限のポイントを説明できる（60～69%）、⑤全く・ほぼ説明できない（59点以下）という観点で行う。

授業科目名： 子ども家庭福祉論A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥村賢一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：子どもや家庭を対象とした子ども家庭福祉に関する法制度の活用等に必要な専門的知識を身につける。</p> <p>到達目標：現代社会における子どもや家庭を取り巻く諸問題とその背景について理解を深め、子ども家庭福祉の観点から関連する法制度やサービス等の専門的知識を活用した子どもや家庭に対する支援方法を説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>現代社会における子どもや家庭を取り巻く諸問題とその背景について理解を深めたうえで、子ども家庭福祉の観点から関連する法制度やサービス等の専門的知識を活用した子どもや家庭に対する具体的な支援方法を解説していく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：子ども家庭福祉とは何か①（子どもの権利に関する条約の目的と意義）</p> <p>第3回：子ども家庭福祉とは何か②（子ども家庭福祉の概念と社会的養育）</p> <p>第4回：子ども家庭福祉の歴史①（慈善・恩恵から権利保障への展開過程）</p> <p>第5回：子ども家庭福祉の歴史②（明治期から昭和期までの子ども家庭福祉の変遷）</p> <p>第6回：子ども家庭を取り巻く現代社会（人口減少と少子高齢化社会に伴う子育て環境の変化）</p> <p>第7回：子ども家庭福祉の支援の基盤（子ども家庭福祉の法体系）</p> <p>第8回：子どもの福祉課題と支援①（子ども家庭福祉を保障する関連法制度）</p> <p>第9回：子どもの福祉課題と支援②（子ども家庭福祉の国及び地方公共団体の実施体制）</p> <p>第10回：子どもの福祉課題と支援③（子ども家庭福祉に関連する関係機関・施設と利用方式）</p> <p>第11回：子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践①（福祉施設と連携した支援方法）</p> <p>第12回：子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践②（地域における子育て支援ネットワーク）</p> <p>第13回：子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践③（子育て支援に向けた行政の役割）</p> <p>第14回：全体のふりかえり</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』、中央法規、2021年			

参考書・参考資料等

参考書：なし、参考資料：毎回、授業開始前にプリントを配布する。

学生に対する評価

授業内レポート・小テスト70%、その他30%

授業科目名： 子ども家庭福祉論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥村賢一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：子ども家庭福祉の概念や現代社会において家族を取り巻く諸課題について理解するとともに、子育て支援（家族支援）の観点から展開するソーシャルワークを身につける。</p> <p>到達目標：子ども家庭福祉のソーシャルワークを基盤にした①子育て支援（家族支援）の意義や目的、②支援体制作りに向けた専門機関との連携、③社会資源の活用方法などについて説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代社会における家庭の役割や機能は複雑多様化しており、近年ではそのことに起因した社会問題が数多く存在する。本講義では、子ども家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした子育て支援（家族支援）の重要性について理解を深めていく。さらに、子育て支援（家族支援）の意義や目的を踏まえ、より実践的な方法論を学ぶとともに、支援体制作りに向けた効果的な専門機関との連携及び社会資源の活用方法などについても学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子ども家庭福祉（家族福祉）の概念</p> <p>第2回：子ども家庭福祉（家族福祉）の歴史</p> <p>第3回：児童虐待から捉える子ども家庭福祉</p> <p>第4回：ネグレクトから捉える子ども家庭福祉</p> <p>第5回：子どもの貧困から捉える子ども家庭福祉①（子どもの貧困とひとり親世帯）</p> <p>第6回：子どもの貧困から捉える子ども家庭福祉②（子どもの貧困対策の現状と課題）</p> <p>第7回：発達障害から捉える子ども家庭福祉</p> <p>第8回：愛着障害から捉える子ども家庭福祉</p> <p>第9回：出生前診断から捉える子ども家庭福祉</p> <p>第10回：終末期から捉える子ども家族福祉</p> <p>第11回：ヤングケアラーから捉える子ども家庭福祉</p> <p>第12回：社会的養護から捉える子ども家庭福祉</p> <p>第13回：家族システムズ・アプローチ①（生体システム論からとらえる子ども家庭支援）</p> <p>第14回：家族システムズ・アプローチ②（事例を用いた子ども家庭支援プロセス）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等
参考資料：毎回、授業開始前にプリントを配布する。
学生に対する評価
授業内レポート・小テスト100%

授業科目名： 障害者福祉論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺島正博 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：障害者の生活、福祉の進展、法令、機関を深く理解し、障害観を説明する。 到達目標：障害者の生活実態、障害者福祉の沿革、障害者福祉の関連法令、障害者福祉に関する機関や専門職等の内容について説明することができる。			
授業の概要 激しく移り変わる障害者福祉の制度や政策、さらには障害者の置かれている実情について講義を行う。また、本講義は国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目であるため、それに対応した過去問題の分析と検討を行う。実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて障害者福祉問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：障害者の定義と特性①（各法令を基にした理解） 第3回：障害者の定義と特性②（ICFを基にした理解） 第4回：障害者福祉の理念 第5回：障害者福祉の歴史①（障害者観の変遷） 第6回：障害者福祉の歴史②（障害者処遇の変遷） 第7回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題 第8回：障害者に対する法制度①（法体系の全体像） 第9回：障害者に対する法制度②（障害者総合支援法における介護給付・訓練等給付） 第10回：障害者に対する法制度③（介護給付・訓練等給付における申請から支給決定までの流れ） 第11回：障害者に対する法制度④（障害の人権と権利を擁護する法体系） 第12回：障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 第13回：障害者と家族等に対する支援の実際 第14回：過去問題を通じた復習①（過去3年以内の社会福祉士試験を用いた復習） 第15回：過去問題を通じた復習②（過去4年から6年以内の社会福祉士試験を用いた復習） 定期試験は実施する。			
テキスト：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規、2021年。			
参考書・参考資料等			

適宜、資料を配布する。

寺島正博『障害者の地域移行への援助ーグループホーム従事者の専門職性』文芸社、2012年。

学生に対する評価：定期試験90%、発表10%

授業科目名： ソーシャルワークの基 盤と専門職 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松岡（小南）佐 智 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉援助技術		
授業のテーマ及び到達目標 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、②ソーシャルワークの概念、③ソ シャルワークの基盤となる考え方、④ソーシャルワークの形成過程、⑤ソーシャルワークの倫理に ついて理解し、説明することができる。			
授業の概要 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、②ソーシャルワークの概念、③ソ シャルワークの基盤となる考え方、④ソーシャルワークの形成過程、⑤ソーシャルワークの倫理に ついて、講義及び事例検討などから学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ① （社会福祉士及び介護福祉士法） 第2回：社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ② （精神保健福祉士法、社会福祉士および精神保健福祉士の専門性、社会福祉士・精神保健福祉 士に求められるコンピテンシー） 第3回：ソーシャルワークの概念①（ソーシャルワークの定義） 第4回：ソーシャルワークの概念②（ソーシャルワークの構成要素） 第5回：ソーシャルワークの概念③（事例を通してソーシャルワークの構成要素について理解する） 第6回：ソーシャルワークの基盤となる考え方①（ソーシャルワークの原理） 第7回：ソーシャルワークの基盤となる考え方②（ソーシャルワークの理念（1）当事者主権、尊厳の 保持、権利擁護） 第8回：ソーシャルワークの基盤となる考え方③（ソーシャルワークの理念（2）自立支援、エンパワ メント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン） 第9回：ソーシャルワークの形成過程①（ソーシャルワークの源流） 第10回：ソーシャルワークの形成過程②（ソーシャルワークの発展期・展開期） 第11回：ソーシャルワークの形成過程③（日本におけるソーシャルワークの形成過程） 第12回：ソーシャルワークの倫理①（専門職倫理の概念） 第13回：ソーシャルワークの倫理②（倫理綱領） 第14回：ソーシャルワークの倫理③（倫理的ジレンマ） 第15回：まとめのテストと解説			

定期試験：実施しない

テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士・精神保健福祉士養成講座⑩ ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規

参考書・参考資料等

九州社会福祉研究会 編『21世紀の現代社会福祉用語辞典 第3版』2022年

その他、適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

授業内レポート・小テスト

授業科目名： ソーシャルワークの 基盤と専門職Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本郷秀和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉援助技術		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」の学習内容を基礎として、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を習得する。			
授業の概要 本講義では「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」の学習内容を基礎とし、(1)倫理的ディレンマ（事例を用いる）、(2)ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、(3)総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容、(4)ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、の4つのテーマを軸に授業を展開する。			
授業計画 第1回：オリエンテーションとソーシャルワークの基盤と専門職の復習 第2回：ソーシャルワークと倫理的ディレンマ1 （倫理的ディレンマとは何か、倫理的ディレンマが生じる要因について） 第3回：ソーシャルワークと倫理的ディレンマ2 （倫理的ディレンマへの対応の流れ、倫理的ディレンマの事例検討等） 第4回：①倫理的ディレンマの事例検討の結果の確認。②ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロ1（ミクロ・メゾ・マクロの視点の必要性和理解） 第5回：ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロ2（ミクロソーシャルワークの視点） 第6回：ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロ3 （メゾ・マクロソーシャルワークの視点の理解） 第7回：地域を基盤とした総合的包括的ソーシャルワークと多職種連携1 （多職種連携とは、多職種とは何か） 第8回：地域を基盤とした総合的包括的ソーシャルワークと多職種連携2 （多職種連携の方法と意義・課題、事例を通じた多職種連携の理解） 第9回：福祉関連の主な資格について1 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲1 （行政・独立行政法人のソーシャルワーカーの役割） 第10回：①福祉関連の主な資格について2 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲2 （児童福祉・学校福祉に関するソーシャルワーカーの役割等） 第11回：①福祉関連の主な資格について3 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲3 （障がい者福祉に関するソーシャルワーカーの役割等）			

第1 2回：①福祉関連の主な資格について 4 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 4
 (高齢者福祉領域に関するソーシャルワーカーの役割等、ソーシャルワーカーの役割に関するグループ報告 1)

第1 3回：ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 5
 (医療、低所得者福祉に関するソーシャルワーカーの役割等、ソーシャルワーカーの役割に関するグループ報告 1)

第1 4回：ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 6
 (司法福祉に関するソーシャルワーカーの役割等、ソーシャルワーカーの役割に関するグループ報告 2)

第1 5回：小テスト (到達目標の確認) と解説

定期試験：なし (必要に応じて実施する)

テキスト

教科書：中央法規「ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通・社会専門)」 (*社会福祉コースの「ソーシャルワークの基盤と専門職 I」 (1年前期) と同じ教科書を使用)

参考書・参考資料等

参考図書：九州社会福祉研究会編 (編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和) 『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円 (税込)。 (*本辞典は、他の科目でも使用予定)

学生に対する評価

・授業のテーマ及び到達目標における目標について、①ほぼ完全に説明できる (90~100%)、②おおむね説明できる (80~89%)、③ある程度説明できる (70~79)、④最低限のポイントを説明できる (60~69%)、⑤全く・ほぼ説明できない (59点以下) という観点で行う。

授業科目名： ソーシャルワークの理論と方法A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：河野高志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉援助技術		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、基礎的なソーシャルワークの理論と方法について解説するものである。授業の到達目標は、ソーシャルワークの基礎理論、実践モデル、アプローチについて基本的な説明ができることとする。			
授業の概要 本講義では、①人と環境の相互作用に関する理論、②ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ、③ケアマネジメント、④グループを活用した支援、⑤コミュニティワーク、⑥ソーシャルアクション、⑦スーパービジョンとコンサルテーションについて解説する。			
授業計画 第1回：人と環境の相互作用に関する理論（システム理論、生態学理論） 第2回：人と環境の相互作用に関する理論（バイオ・サイコ・ソーシャル、マイクロ-マクロ） 第3回：ソーシャルワークの実践モデル 第4回：ソーシャルワークのアプローチ（診断主義、機能主義、問題解決） 第5回：ソーシャルワークのアプローチ（行動変容、課題中心、認知行動） 第6回：ソーシャルワークのアプローチ（危機介入、エンパワメント、ナラティブ） 第7回：ケアマネジメントの発展 第8回：ケアマネジメントの基本的機能 第9回：ケアマネジメントの展開過程 第10回：ケアマネジメント事例の検討（アセスメント） 第11回：ケアマネジメント事例の検討（モニタリング・評価） 第12回：グループを活用した支援 第13回：コミュニティワーク 第14回：ソーシャルアクション 第15回：スーパービジョンとコンサルテーション 定期試験			
テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』中央法規 河野高志（2021）『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開』株式会社み			

らい

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験60%、授業内レポート40%

授業科目名： ソーシャルワークの 理論と方法B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：本郷秀和 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉援助技術		
授業のテーマ及び到達目標			
ソーシャルワークの理論と方法の中でも（1）面接、（2）記録、（3）ソーシャルアドミニストレーション、（4）ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見からアフターケアまで）について、適切に説明できるようになること。			
授業の概要			
本科目は、ソーシャルワークの理論と方法の中でも（1）面接、（2）記録、（3）ソーシャルアドミニストレーション、（4）ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見からアフターケアまで）に学習内容を絞って理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、ソーシャルワークの基盤と専門職の振り返り			
第2回：ソーシャルワークと面接1（ソーシャルワーク面接の概要）			
第3回：ソーシャルワークと面接2（ソーシャルワーク面接の基本姿勢と質問技法）			
第4回：ソーシャルワークと面接3（ソーシャルワーク面接の展開方法）			
第5回：ソーシャルワークと記録1（ソーシャルワーク記録の概要）			
第6回：ソーシャルワークと記録2（ソーシャルワーク記録の種類と各々の視点）			
第7回：ソーシャルワークと記録3（ソーシャルワーク記録の方法と留意点）			
第8回：ソーシャルワークとアドミニストレーション1（社会福祉の管理運営の概要）			
第9回：ソーシャルワークとアドミニストレーション2（社会福祉の管理運営の方法）			
第10回：ソーシャルワークの展開過程1（アウトリーチとインターク）			
第11回：ソーシャルワークの展開過程2（アセスメント）			
第12回：ソーシャルワークの展開過程3（介入とモニタリング）			
第13回：ソーシャルワークの展開過程4（終結とフォローアップ）			
第14回：ソーシャルワークの展開過程5 （ソーシャルワーク展開過程からみたミクロ・メゾ・マクロの視点等）			
第15回：①全体のまとめと振り返り・質疑応答、②学習成果の提出（学んだことなど）			
定期試験：実施なし			
テキスト			
中央法規『社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』（『ソーシャ			

ルワークの理論と方法A』と同じ教科書を使用)

参考書・参考資料等

参考図書：九州社会福祉研究会編（編集代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・片岡靖子・本郷秀和）『第3版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』、学文社、2022年2月発行、3630円（税込）

学生に対する評価

授業のテーマ及び到達目標における目標について、①ほぼ完全に説明できる（90～100%）、②おおむね説明できる（80～89%）、③ある程度説明できる（70～79）、④最低限のポイントを説明できる（60～69%）、⑤全く・ほぼ説明できない（59点以下）という観点で行う。

授業科目名： ソーシャルワークの理論と方法C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松岡（小南）佐智 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉援助技術		
授業のテーマ及び到達目標 ソーシャルワーク実践の知識と方法論に基づき、①援助関係の形成、②ネットワークの形成、③社会資源の活用・調整・開発、④カンファレンスにおける意義、目的、方法、留意点について理解し、説明することができる。			
授業の概要 社会福祉士として、多様化・複雑化する課題に対応するため、①ソーシャルワークにおける援助関係の形成、②ネットワークの形成、③ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発、④カンファレンスについて理解する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・ソーシャルワーカーが求められている現代社会の特徴 第2回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成（1）（専門的援助関係と一般的援助関係の違い） 第3回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成（2）（援助関係の形成方法） 第4回：ソーシャルワークにおける援助関係の形成（3）（事例を基にした「援助関係の形成」の理解） 第5回：ネットワークの形成（1）（ネットワークとネットワーキング） 第6回：ネットワークの形成（2）（コーディネーション） 第7回：ネットワークの形成（3）（事例を基にした「ネットワークの形成」の理解） 第8回：ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（1）（社会資源の概要） 第9回：ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（2）（社会資源の活用・調整・開発の目的と意義） 第10回：ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（3）（社会資源開発の方法） 第11回：ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（4）（事例を基にした「社会資源の活用・調整・開発」の理解） 第12回：カンファレンス（1）（カンファレンスの意義） 第13回：カンファレンス（2）（カンファレンスの方法） 第14回：カンファレンス（3）（事例を基にした「カンファレンス」の理解） 第15回：全体のまとめ（確認テストと解説） 定期試験：実施なし			

テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門] 』中央法規、2021年

参考書・参考資料等

九州社会福祉研究会 編『21世紀の現代社会福祉用語辞典 第3版』2022年

その他、適宜、資料を配布する。

学生に対する評価

授業内レポート・小テスト

授業科目名： ソーシャルワークの 理論と方法D	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：河野高志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉援助技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義は、専門的なソーシャルワークの理論と方法について解説するものである。授業の到達目標は、総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際とソーシャルワーク実践の関連技術・技法について基本的な説明ができることとする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、①総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際、②地域包括ケアシステムにおけるソーシャルワーク、③事例分析、④ソーシャルワークの関連技術・技法について解説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの考え方</p> <p>第2回：総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際（家族支援）</p> <p>第3回：総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際（地域支援）</p> <p>第4回：総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際（災害時支援）</p> <p>第5回：地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの役割と課題</p> <p>第6回：地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進</p> <p>第7回：地域包括ケアシステムの構築に向けた課題</p> <p>第8回：マッピング技法（フェイスシート、ジェノグラム）</p> <p>第9回：マッピング技法（エコマップ、リソースマップ）</p> <p>第10回：事例分析・事例検討・事例研究</p> <p>第11回：ソーシャルワークの関連技術・技法（ネゴシエーション）</p> <p>第12回：ソーシャルワークの関連技術・技法（コンフリクト・レゾリューション）</p> <p>第13回：ソーシャルワークの関連技術・技法（ファシリテーション）</p> <p>第14回：ソーシャルワークの関連技術・技法（プレゼンテーション）</p> <p>第15回：ソーシャルワークの関連技術・技法（ソーシャル・マーケティング）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕』中央法規</p> <p>河野高志（2021）『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開』株式会社み</p>			

らい

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験60%、授業内レポート40%

授業科目名： 介護福祉論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：秋竹純 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 介護理論・介護技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：介護福祉分野の基礎知識を体系的に理解した上で、具体的な支援方法を提案し説明できる。</p> <p>到達目標：</p> <p>①介護の概念について理解し説明できる。</p> <p>②介護予防とは何か理解した上で必要なキーワードを挙げ、具体的な対策が列挙できる。</p> <p>③認知症の基本知識を踏まえ、その種類や特徴となる症状が説明できる。</p> <p>④ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について具体的な説明ができる。</p> <p>⑤介護分野における新しい取り組みや、将来の展望について課題を整理し列挙できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>介護福祉分野の歴史的変遷を辿りながら課題を整理し、新しい介護分野（介護予防、MCI、認知症高齢者の介護、介護DX、終末期介護）を中心とした、社会福祉領域で必要となる基本知識を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業オリエンテーション 高齢者の特性</p> <p>第2回：介護の概念と理念</p> <p>第3回：介護の対象</p> <p>第4回：介護予防の概要1【加齢に伴う身体機能の変化、食事と活動】</p> <p>第5回：介護予防の概要2【介護保険制度改正と介護予防】</p> <p>第6回：介護過程1【支援までのプロセスと介護過程展開】</p> <p>第7回：介護過程2【ICFの視点を活用、利用者の自立を目指した事例展開】</p> <p>第8回：介護各論1【自立の概念、自立支援としての介護展開】</p> <p>第9回：介護各論2【住環境整備等、身支度の介護】</p> <p>第10回：介護各論3【移動・移乗】</p> <p>第11回：介護各論4【睡眠、食事・口腔衛生】</p> <p>第12回：介護各論5【入浴、清潔、排泄】</p> <p>第13回：介護各論6【認知症ケア】</p> <p>第14回：介護各論7【終末期ケア】</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p> <p>テキスト</p>			

社会福祉士養成講座編集委員会編集『介護概論』中央法規出版、2023年

参考書・参考資料等

九州社会福祉研究会（編）「21世紀の現代社会福祉用語辞典（第2版）」学文社、2021年

本郷秀和著「高齢者虐待と介護支援専門員」発見力向上に向けた課題と提案」中央法規出版、2020年

学生に対する評価

授業内レポート・小テスト50%、授業外レポート・宿題50%

授業科目名： ソーシャルワーク 演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：本郷秀和、 河野高志、松岡（小南）佐智、 岡田和敏 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ソーシャルワークの基本的技能となる面接・記録・観察・自己覚知・グループワークおよびプレゼンテーションの方法について説明・実行できる。			
授業の概要 1グループ20名以下の4グループに分かれ、4名のテーマ別担当教員によるローテーション方式での演習を行う。次の①から⑦の内容に対する実技指導（ロールプレイング等）を個別並びに集団指導方式での演習を行う。①自己覚知・自己理解と他者理解 ②基本的コミュニケーション技術、言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等）と非言語技術（表情、態度、身振り、位置取り等） ③基本的な面接技術、面接の構造化、場の設定（面接室、生活場面、自宅等）、ツールの活用（電話、e-mail等） ④ソーシャルワーク展開過程。＊特に事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程を想定した実技指導。（ケースの発見・インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・支援の終結と事後評価・アフターケア） ⑤ソーシャルワークの記録、支援経過の把握と管理 ⑥グループダイナミクスの活用、グループワークの構成（グループリーダー・コリーダー・グループメンバー）、グループワークの展開過程（準備期・開始期・作業期・終結期） ⑦プレゼンテーション技術（個人プレゼンテーション・グループプレゼンテーション）			
授業計画 第1回（全員）：オリエンテーション、演習の進め方と担当教員について 第2回（松岡）：（1）自己覚知・自己理解と他者理解1（自己覚知・自己理解の意義と方法） 第3回（松岡）：（2）自己覚知・自己理解と他者理解2（価値観に焦点を当てた自己覚知・自己理解と他者理解） 第4回（松岡）：（3）自己覚知・自己理解と他者理解3（事例検討を通じた自己覚知・自己理解と他者理解） 第5回（岡田）：（1）基本的な面接の技術と構造化、場の設定、ツール活用等（ソーシャルワーク面接の基本と場の設定に関する体験的理解） 第6回（岡田）：（2）基本的な面接の技術と構造化、場の設定、ツール活用等（ソーシャル			

ワーク面接の構造化の体験的理解)

第7回(岡田) : (3) 基本的な面接の技術と構造化、場の設定、ツール活用等(コンピュータによる面接の課題と意義等(に関する体験的理解)

第8回(本郷) : (1) ソーシャルワーク展開過程と記録、支援経過の把握と管理(エコマップ記録の作成方法と練習、ジェノグラム記録の概要)

第9回(本郷) : (2) ソーシャルワーク展開過程と記録、支援経過の把握と管理(バリアフリーに関する観察練習とアセスメント記録)

第10回(本郷) : (3) ソーシャルワーク展開過程と記録、支援経過の把握と管理(動画を用いたALS患者の観察とアセスメントとモニタリング)

第11回(河野) : (1) 基本的コミュニケーション技術とグループワーク(基本的コミュニケーションの意義と方法)

第12回(河野) : (2) 基本的コミュニケーション技術とグループワーク(グループワークの意義と展開方法)

第13回(河野) : (3) 基本的コミュニケーション技術とグループワーク(グループワークの展開の実践練習)

第14回(全員) : (1) グループ及び個人プレゼンテーション1(各グループにおけるテーマの設定とプレゼンテーション資料作成)

第15回(全員) : (2) グループ及び個人プレゼンテーション2(各グループにおけるプレゼンテーションと質疑応答)

定期試験:実施なし

テキスト

- ・適宜、演習用資料を配布し説明する。

参考書・参考資料等

- ・『ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規、2021年

学生に対する評価

授業のテーマ及び到達目標における目標について①ほぼ完全に説明・実行できる(90~100%)、②おおむね説明・実行できる(80~89%)、③ある程度説明・実行できる(70~79%)、④最低限のポイントを説明・実行できる(60~69%)、⑤全く・ほぼ説明・実行できない(59点以下)という観点で行う。

授業科目名： ソーシャルワーク演習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村山浩一郎、 寺島正博、畑香理、今村浩 司 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 具体的な実践事例の検討などを通してソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を理解していることを示すことができる。</p> <p>② 具体的な実践事例の検討などで活用する専門的援助技術を概念化・理論化できる。</p> <p>③ 具体的な事例から援助が必要な生活課題や地域課題を抽出し、その課題に対するソーシャルワークの実践方法を検討できる。</p> <p>④ グループディスカッションなどにより、課題に対するソーシャルワークの実践方法について協議できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ソーシャルワーク演習Aの学びをふまえて、社会的排除・危機状態にある事例、低所得者・ホームレスの事例、医療福祉における患者への援助事例などの具体的な事例を活用し、支援を必要としている人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。また、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、4グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から7回ずつ授業を受ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回（全員）：オリエンテーション（全体授業）</p> <p>第2回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（1）認知理論アプローチを基にした検討</p> <p>第3回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（2）エンパワメントアプローチを基にした検討</p> <p>第4回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（3）危機介入アプローチを基にした検討</p> <p>第5回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（4）問題解決アプローチを基にした検討</p> <p>第6回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（5）課題中心アプローチを基にした検討</p> <p>第7回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（6）ナラティブアプローチを基にした検討</p> <p>第8回（寺島）：社会的排除・危機状態にある事例（7）エコロジカルアプローチを基にした</p>			

検討

- 第9回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（1）当事者の現状
- 第10回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（2）当事者理解と支援者の立ち位置
- 第11回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（3）当事者理解のグループ討論
- 第12回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（4）当事者理解に対する発表
- 第13回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（5）子どもの貧困対策に向けた取り組み
- 第14回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（6）ホームレス支援の実際
- 第15回（今村）：低所得者・ホームレスの事例（7）児童虐待の現状と課題
- 第16回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（1）エンゲージメント
- 第17回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（2）患者とのインテーク面接
- 第18回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（3）アセスメントと多職種連携
- 第19回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（4）アセスメント～プランニング
- 第20回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（5）プランニング～支援の実施
- 第21回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（6）モニタリング～退院後のアフターケア
- 第22回（畑）：医療福祉における患者への援助事例（7）支援の評価とマッピング技法
- 第23回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（1）地域をイメージしよう（事例1）
- 第24回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（2）地域住民と当事者の多様な関係の見方（事例2）
- 第25回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（3）地域住民と一緒に当事者を支える視点と方法（事例3）
- 第26回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（4）地域で暮らしていくための基盤づくり（事例4）
- 第27回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（5）地域住民が参加する活動・事業の運営（事例5）
- 第28回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（6）住民主体の地域づくりのプロセスとその支援（事例6）
- 第29回（村山）：地域福祉の基盤整備と開発に係る事例（7）まとめ—社会資源開発の考え方と方法
- 第30回（全員）：全体のふりかえりとまとめ（全体授業）
- 定期試験は実施しない

テキスト なし

参考書・参考資料等

- ・川村隆彦（2011年）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
- ・「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会編（2021年）『学びが深まるソーシャル

ワーク演習』ミネルヴァ書房

- ・藤井博志編著（2019年）『地域福祉のはじめかた―事例による演習で学ぶ地域づくり』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

実技演習（提出物やプレゼンを含む）（60%） 授業態度・授業への参加度（40%）

授業科目名： ソーシャルワーク演習C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：寺島正博、本郷 秀和、河野高志、荒木剛 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：高齢者等の危機事例に対し、ソーシャルワークの倫理と実践的支援を理解・説明する。</p> <p>到達目標：高齢者虐待・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例について、①ソーシャルワークの価値規範を理解し倫理的に判断したことを示すことができる。②分野の横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解したことを説明することができる。③ソーシャルワークの対象と展開過程等について実践的に理解したことを示すことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高齢者虐待・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例を活用し、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。また、社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養い、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。さらには、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解し、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：老老介護により介護危機に直面した高齢者世帯の複合的課題の理解と包括的総合的支援① （事例を活用し、ケースの発見、インテーク、アセスメントなどについて実技指導を行う。また、アウトリーチ、チームアプローチなどについて理解する）</p> <p>第3回：老老介護により介護危機に直面した高齢者世帯の複合的課題の理解と包括的総合的支援② （事例を活用し、プランニング、支援の実施、モニタリングなどについて実技指導を行う。また、ネットワークキング、コーディネーションなどについて理解する）</p> <p>第4回：老老介護により介護危機に直面した高齢者世帯の複合的課題の理解と包括的総合的支援③ （事例を活用し、支援の集結と事後評価、アフターケアなどについて実技指導を行う。また、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどについて理解する）</p> <p>第5回：医療福祉における患者の複合的課題と包括的総合的支援①</p>			

(事例を活用し、ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニングなどについて実技指導を行う。さらに、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーションなどについて理解する)

第6回：医療福祉における患者の複合的課題と包括的総合的支援②

(事例を活用し、支援の実施、モニタリング、支援の集結と事後評価、アフターケアなどについて実技指導を行う。さらに、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどについて理解する)

第7回：終末期ケアにおける患者の複合的課題と包括的総合的支援

(事例を活用し、実技指導を行う)

第8回：家庭内の高齢者虐待における複合的課題と包括的総合的支援

(事例を活用し、実技指導を行う)

第9回：施設内の高齢者虐待における複合的課題と包括的総合的支援

(事例を活用し、実技指導を行う)

第10回：認知症高齢者の事例と複合的課題の理解及び包括的総合的支援

(事例を活用し、実技指導を行う)

第11回：災害福祉における災害弱者の複合的課題の理解と包括的総合的支援①

(事例を活用し、ケースの発見、インテーク、アセスメントなどについて実技指導を行う。また、アウトリーチ、チームアプローチなどについて理解する)

第12回：災害福祉における災害弱者の複合的課題の理解と包括的総合的支援②

(事例を活用し、プランニング、支援の実施、モニタリングなどについて実技指導を行う。また、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーションなどについて理解する)

第13回：災害福祉における災害弱者の複合的課題の理解と包括的総合的支援③

(事例を活用し、支援の集結と事後評価、アフターケアなどについて実技指導を行う。また、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどについて理解する)

第14回：危機的状態にある利用者・家族支援①

(事例を活用し、ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニングなどについて実技指導を行う。さらに、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーションなどについて理解する)

第15回：危機的状態にある利用者・家族支援②

(事例を活用し、支援の実施、モニタリング、支援の集結と事後評価、アフターケアなどについて実技指導を行う。さらに、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションなどについて理解する)

定期試験は実施しない

テキスト：なし

参考書・参考資料等：適宜指示する。

学生に対する評価：実技演習（提出物やプレゼンテーション）60%、授業への参加度40%

授業科目名： ソーシャルワーク演習 D	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：本郷秀和、廣田 (木村) 久美子、村山浩一郎 、奥村賢一、河野高志、寺島 正博、畑香理、松岡 (小南) 佐智 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 福祉)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等におけ る介護実習を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 実習体験の振り返りを通じ、実習体験の学びを深めると同時に、社会福祉士が取り組むべき支 援ケースの作成及び検討能力、各福祉分野で期待される知識や技能等を習得する。			
授業の概要 本演習では、各自のソーシャルワーク実習体験の振り返りを通じ、実習体験の学びを深めると 同時に、社会福祉士が取り組むべき支援ケースの作成及び検討能力、各福祉分野で期待される 知識や技能等を習得する。各グループによって実習先と体験できた内容が大きく異なるために 事業計画は共通的な項目である。具体的な流れや方法については、各グループ (実習領域別) の担当教員の指示に従うこと。			
授業計画 第1回：全体オリエンテーション (授業概要の全体説明と各グループ分け、グループ別オリエンテーション) 第2回：実習領域別演習：実習先の管理運営体制と関連法制度の理解・実習施設の役割 第3回：実習領域別演習：関係職種との役割と機能・連携の必要性 (連携機関と連携する専門職の役割) 第4回：実習領域別演習：実習領域・施設における社会福祉士の役割と機能 第5回：実習領域別演習：実習領域・施設のサービス利用者の特性 (実習体験等を基にした報告) 第6回：実習領域別演習：運営基準・契約の理解とサービス利用契約の技法 第7回：実習領域別演習：利用者の特性・ペースに応じた制度、活動・サービスの説明練習 第8回：実習領域別演習：実習体験を基にした作成事例の検討と決定・報告 (担当教員によるスーパービジョンを経て、グループにて作成する事例を検討し決定する) 第9回：実習領域別演習：実習体験を基にした事例作成 (アセスメント結果の検討と作成) 第10回：実習領域別演習：実習体験を基にした事例作成 (個人による援助計画案の検討と作成) 第11回：実習領域別演習：実習体験を基にした事例作成 (グループでの援助計画案の検討と作成) 第12回：実習領域別演習：ケースカンファレンスとアセスメントと援助計画の作成 (完成) 第13回：実習領域別演習：作成事例に対するアセスメントから援助計画までの全体報告 (プレゼン)			

第14回：実習領域別演習：地域アセスメントを基にした地域支援の方法と流れ

第15回：実習領域別演習：全体のまとめ、質疑応答等

※詳細は領域別の担当教員が指示する。

定期試験：実施なし

テキスト

グループ別の各担当教員により別途指示する。

参考書・参考資料等

- ・九州社会福祉研究会 編『21世紀の現代社会福祉用語辞典 第3版』2022年
- ・『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規、2021年

学生に対する評価

授業内レポート・小テスト・発表

授業科目名： ソーシャルワーク実習 指導 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本郷秀和、廣田 (木村) 久美子、村山浩一郎 、奥村賢一、河野高志、寺島 正博、畑香理、松岡 (小南) 佐智、戸丸純一 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 福祉)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等におけ る介護実習を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ソーシャルワークの価値と倫理に基づく姿勢や行動をとることができ、実践場面における基礎 的なソーシャルワーク機能を説明できる。			
授業の概要 ソーシャルワーク実習及び実習指導の目的と意義を踏まえ、①外部講師の講話を通じた実習に 関連する施設・機関/地域社会の基本的理解、他職種に関する基本的理解、②社会福祉協議会 におけるプレ実習 (現場体験学習/見学実習)、③実習先で必要となるソーシャルワークの価 値・倫理・知識・技術の理解、④実習におけるプライバシーの保護と守秘義務等の理解、⑤実 習記録の目的と方法・内容の理解、⑥実習計画の作成、⑦実習生・担当教員・実習指導者によ る協議 (実習計画の作成と実習後の評価について)、⑧巡回指導、⑨実習体験・実習記録を踏 まえた課題の整理、⑩実習総括レポートの作成を個別指導及び集団指導によって行う。なお、 本授業は、原則として小グループ単位 (1グループ20名以下) で行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション (今後の授業スケジュールの説明等) 第2回：プレ実習についてのオリエンテーション (プレ実習の流れ等についての説明) 第3回：プレ実習先についての理解 (外部講師講話) 第4回：ソーシャルワーク実習Aの実習先選択についてのオリエンテーション (分野別説明含む) 第5回：外部講師講話 (児童相談所) 第6回：外部講師講話 (児童養護施設) 第7回：外部講師講話 (社会福祉協議会) 第8回：外部講師講話 (療育センター) 第9回：外部講師講話 (就労支援事業所) 第10回：外部講師講話 (介護老人福祉施設) 第11回：外部講師講話 (地域包括支援センター) 第12回：外部講師講話 (医療機関等)			

<p>第13回：ソーシャルワーク実習Bの実習先選択についてのオリエンテーション（分野別説明含む）</p> <p>第14回：社会福祉協議会でのプレ実習①（社会福祉協議会の役割を学ぶ）</p> <p>第15回：社会福祉協議会でのプレ実習②（社会福祉協議会の部署について理解を深める）</p> <p>第16回：社会福祉協議会でのプレ実習③（地域福祉の向上に向けた取り組みを知る）</p> <p>第17回：社会福祉協議会でのプレ実習④（地域活動を通して住民との交流を図る）</p> <p>第18回：後期オリエンテーション（今後の授業スケジュール・実習配属先について）</p> <p>第19回：個人票・実習計画書・誓約書の書き方</p> <p>第20回：分野別事前学習①（実習機関の根拠法や運営理念等を調べる）</p> <p>第21回：分野別事前学習②（実習機関に配置されている専門職の役割を調べる）</p> <p>第22回：分野別事前学習③（実習機関が連携を行う関係先を調べる）</p> <p>第23回：分野別事前学習④（個人票および誓約書の添削指導）</p> <p>第24回：分野別事前学習⑤（実習計画書の添削指導）</p> <p>第25回：実習中のマナーの理解</p> <p>第26回：実習日誌の書き方、守秘義務についての確認、実習前オリエンテーション</p> <p>第27回：3年生の実習報告の聴講（メディア授業）</p> <p>第28回：プレ実習のふり返り（総括）</p> <p>第29回：ソーシャルワーク実習A 実習巡回指導（1回目）</p> <p>第30回：ソーシャルワーク実習A 実習巡回指導（2回目）</p> <p>定期試験：実施なし</p>
テキスト なし
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」必要に応じてプリントを配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業外レポート・宿題・授業態度・授業への参加度</p>

授業科目名： ソーシャルワーク実習 指導Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：本郷秀和、廣田 （木村）久美子、村山浩一郎 、奥村賢一、河野高志、寺島 正博、畑香理、松岡（小南） 佐智、戸丸純一 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習（社会福祉援助実習及び社会福祉施設等におけ る介護実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①ソーシャルワークの価値と倫理に基づく姿勢や行動を説明できる。 ②実践場面に必要な基礎的なソーシャルワーク機能を説明できる。 ③実習での体験を、理論や概念に基づいて専門的な支援技術を説明できる。			
授業の概要 ソーシャルワーク実習及び実習指導の目的と意義を踏まえ、①実際に実習を行う施設・機関／ 地域社会の基本的理解、②実習先で必要となるソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術の 理解、③実習におけるプライバシーの保護と守秘義務等の理解、④実習記録の目的と方法・内 容の理解、⑤実習計画の作成、⑥実習生・担当教員・実習指導者による協議（実習計画の作成 と実習後の評価について）⑦巡回指導、⑧実習体験・実習記録を踏まえた課題の整理、⑨実習 総括レポートの作成、⑩ソーシャルワーク実習A・Bの評価及び全体総括会を個別指導及び集 団指導によって行う。			
授業計画 第1回 ①オリエンテーション（相談援助実習・実習指導における個別・集団指導の意義、授業計画 及び履修基準等の説明）、②実習種別グループに分かれ、実習種別グループ指導にむけたオ リエンテーション 第2回 ソーシャルワーク実習Aの実習報告会 第3回～第8回 実習種別グループ別指導（①実際に実習を行う実習分野[利用者理解を含む]と施設 ・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解、②各実習先で行われる介護や保育等 の関連業務に関する理解、③実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する知識 と技術に関する理解、④実習施設の概要理解（経緯・設置根拠・サービス内容・配置専門職 と役割・財源等を整理し各自報告、⑤実習計画書等の記入方法等。）、⑥実習日誌の目的と 書き方（「実習記録ノート」の目的・意義と記録内容・方法に関する理解） 第9回 ①守秘義務に関する講義（実習における福祉サービス利用者等のプライバシー保護と守秘義 務等の理解）、②相談援助実習直前オリエンテーション、③巡回訪問指導、事前訪問に関す			

る確認等
第10回～第11回 各担当教員による実習巡回指導（1週間に1回の巡回指導及び帰校日指導）
第12回 実習体験や実習記録を踏まえた実習総括会に向けた報告作成についてのオリエンテーション ＜3年後期～＞
第13回～第14回 実習体験を踏まえた個別スーパービジョン（実習体験の振り返り）と実習報告会の準備
第15回 実習の評価全体の総括会（実習報告会）
定期試験：実施なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」、必要に応じてプリントを配布する。
学生に対する評価 事前学習のレポート等の提出・発表・実習後レポート提出・実習報告会での発表

授業科目名： ソーシャルワーク実習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：本郷秀和、廣田 (木村) 久美子、村山浩一郎 、奥村賢一、河野高志、寺島 正博、畑香理、松岡 (小南) 佐智、戸丸純一 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 福祉)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等におけ る介護実習を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ソーシャルワークの価値と倫理に基づく姿勢や行動をとることができ、実践場面における基礎的なソーシャルワーク機能を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>後期 (原則、春季休業期間中) に、7日間程度 (56時間以上)、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等においてソーシャルワーク実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は以下の事項を体験的・実践的に修得する。</p> <p>第1回：利用者とのコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>第2回：家族とのコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>第3回：親族・友人とのコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>第4回：施設・事業者とのコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>第5回：機関・団体とのコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>第6回：住民やボランティア等とのコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>第7回：利用者との援助関係の形成</p> <p>第8回：関係者 (家族・親族、友人等) との援助関係の形成</p> <p>第9回：当該実習先が地域社会の中で果たす役割理解</p> <p>第10回：具体的な地域社会への働きかけの現状と課題</p> <p>第11回：社会福祉士としての職業倫理</p> <p>第12回：組織の一員としての役割の理解</p> <p>第13回：組織の一員としての責任の理解</p> <p>第14回：実習総括 (実習を通して得た自己覚知の理解)</p> <p>第15回：実習総括 (社会福祉士として自らに求められる今後の課題)</p> <p>なお、実習中、各学生は、その日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、</p>			

振り返りを行う。また、ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行う。

定期試験：実施なし

テキスト なし

参考書・参考資料等

「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」必要に応じてプリントを配布する。

学生に対する評価

実習評価票に基づく実習先の評価内容・実習態度及び実習への参加度

授業科目名： ソーシャルワーク実習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名：本郷秀和、廣田 (木村) 久美子、村山浩一郎 、奥村賢一、河野高志、寺島 正博、畑香理、松岡 (小南) 佐智、戸丸純一 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 福祉)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会福祉総合実習 (社会福祉援助実習及び社会福祉施設等におけ る介護実習を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①ソーシャルワーカーとしての倫理・専門性を理解し、継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。②ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を示すことができる。③ソーシャルワークに係る知識と技術、関連分野の専門職との連携のあり方について具体的かつ実際に理解し説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>原則として、3年次の夏季休業期間中の4～5週間 (184時間以上)、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等においてソーシャルワーク実習を行う。この期間、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行うが、ソーシャルワーク実習Aで実習を行った施設・機関とは機能が異なる施設・機関で各自、実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回～第15回 本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は以下の事項を体験的・実践的に修得する。</p> <p>①利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成</p> <p>②利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成</p> <p>③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価</p> <p>④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解</p> <p>⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ</p> <p>⑥地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> <p>⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)</p> <p>⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解</p>			

<p>⑨ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解</p> <ul style="list-style-type: none">・アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
定期試験：実施なし
テキスト なし
参考書・参考資料等 「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」必要に応じてプリントを配布する。
学生に対する評価 実習評価票に基づく実習先の評価内容・実習態度及び実習への参加度

授業科目名：医学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小嶋 秀幹 担当形態：単独
科 目	教科に関する専門的及び教科の指導法に関する科目（高等学校福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解		
授業のテーマ及び到達目標 身体構造と心身機能、様々な疾患や障害、リハビリテーション、公衆衛生等、医学の概要について理解し、内容を説明できる。			
授業の概要 医学の基礎的な知識と典型的な疾患概念、標準的な治療を学習することにより、受講者が将来、福祉や心理、特別支援教育の専門職者として関与する支援対象者を、保健医療の視点から理解し、対処するための基礎知識を得る。			
授業計画 第1回：ライフステージにおける心身の変化と健康課題 第2回：健康および疾病の捉え方 第3回：身体構造と心身機能 第4回：疾病と障害の成り立ちおよび回復過程 第5回：リハビリテーションの概念と範囲 第6回：感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害 第7回：脳血管障害、心疾患 第8回：内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患 第9回：腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患 第10回：骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患 第11回：眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害、口腔疾患 第12回：婦人科・産科、精神疾患、精神障害、発達障害 第13回：小児科疾患、肢体不自由、知的障害 第14回：生活習慣病、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア 第15回：公衆衛生			
定期試験			
テキスト：「医学概論」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集：（最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座）1，中央法規，2021年，			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価：定期試験70%、授業外レポート・宿題30%			

授業科目名： 障害者・障害児心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小山 憲一郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 加齢に関する理解・障害に関する理解		
授業のテーマ及び到達目標 各種障害の特性、心理状態等についての知識を身に着ける。			
授業の概要 近年、障害児・者に対して教育現場では特別支援教育がはじまり、福祉領域においても「発達障害者支援法」が成立し、障害児・者を取り巻く支援環境は大きく変わり始めているものの、ここ最近の事件報道に加害者として取り上げられる等のさまざまな問題を抱えている。この講義では、さまざまな『障害』の特性について学習し、さらに当事者の声を聞きながら、障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について理解を深めていく。			
授業計画 第1回：障害とは何か - 障害者・障害児の心理・社会的課題 第2回：知的障害児・者に関する生理・心理・病理と支援 第3回：自閉性スペクトラム障害児・者の生理・心理・病理 第4回：自閉性スペクトラム障害児・者への支援—障害特性に応じた環境調整・療育— 第5回：自閉性スペクトラム障害児・者への支援—二次的情緒障害への心理的支援— 第6回：ADHD児・者の生理・心理・病理 第7回：ADHD児・者に対する心理的支援 第8回：学習症児・者に関する生理・心理・病理と支援 第9回：特別支援教育と発達障害者支援法に関して 第10回：精神障害児・者に関する生理・心理・病理と支援（統合失調症・うつ病・不安症） 第11回：運動障害児・者に関する生理・心理・病理と支援 第12回：中途障害・進行性疾患児・者に関する生理・心理・病理と支援 第13回：障害児・者の家族の心理と支援 第14回：早期発見・早期療育（乳幼児期の支援） 第15回：まとめ 定期試験：期末レポートをもって代える			
テキスト 授業内で資料を配布します。			
参考書・参考資料等 田中新正 古賀清治 編著 新訂『障害児・障害者心理学特論』NHK 出版			
学生に対する評価 各回の授業のハイライトと、意見感想質問をまとめたミニレポート及び期末レポート（授業内で取り上げた障害について、自らも文献をあたり調べたうえで知識をまとめ、障害に対する認識や支援の在り方について論じる）をもって評価する。			

授業科目名： 保健医療論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：畑香理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 加齢に関する理解・障害に関する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：保健医療の動向、制度、専門職の役割と連携、保健医療の課題を持つ人への適切な支援のあり方等について理解する。</p> <p>到達目標：保健医療の動向、制度、専門職の役割と連携、保健医療の課題を持つ人への適切な支援等に関する用語の意味が理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向、②保健医療にかかわる政策・制度・サービス、③保健医療領域における社会福祉士の役割と連携・協働、④保健医療の課題をもつ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方の4点に関する理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保健医療の課題をもつ人の理解①(病者の理解、疾病・障害・加齢の理解)</p> <p>第2回：保健医療の課題をもつ人の理解②(家族の理解)</p> <p>第3回：保健医療の課題をもつ人の理解③(患者の権利)</p> <p>第4回：医療倫理①(医療倫理と倫理的課題)</p> <p>第5回：医療倫理②(患者の意思決定をめぐる課題)</p> <p>第6回：保健医療の動向①(疾病構造の変化)</p> <p>第7回：保健医療の動向②(入院医療から在宅医療／病院完結型医療から地域完結型医療へ)</p> <p>第8回：保健医療の動向③(保健医療における福祉的課題)</p> <p>第9回：保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識①(保健医療の政策・制度)</p> <p>第10回：保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識②(保健医療サービスの提供体制)</p> <p>第11回：保健医療領域に必要な政策・制度・サービスに関する知識③(医療費の保障、その他政策・制度)</p> <p>第12回：保健医療領域における専門職の役割と連携①(保健医療領域における専門職と院内連携)</p> <p>第13回：保健医療領域における専門職の役割と連携②(地域の関係機関との連携の実際)</p> <p>第14回：保健医療領域における専門職の役割と連携③(医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築)</p> <p>第15回：保健医療領域における支援の実際(保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割、支援の実際)</p> <p>定期試験：実施なし</p>			
<p>テキスト：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』2021年、中央法規出版</p>			
<p>参考書・参考資料等：適宜、資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：定期試験70%、授業内小レポート・小テスト30%</p>			

授業科目名： 福祉科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大場敬太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教科としての「福祉」創設の背景と目的を理解する。教科としての福祉9科目の目的と内容・指導方法の概観を把握する。			
授業の概要 本講義は、高等学校教諭一種免許「福祉」を取得するために必要な指定科目である。福祉教育の理念と方法を学ぶうえで基礎的・実践的な科目であることを理解しておく必要がある。本講義では、福祉系高校における福祉専門職養成の現状と課題を理解する。いわゆる「現場の福祉」と「理想の福祉」をどのように教示・指導していくか。そのために必要な福祉業界の変遷、福祉情報収集の方法を理解し知識を修得できることを目指す。			
授業計画			
第 1回：高等学校に福祉科目が設置された経緯と社会的意義 ・産業教育として位置づけられている意味を理解し、教育の観点からみた福祉を概観する。			
第 2回：高校学校で修学する福祉科目の内容とその目標 ・福祉9科目の概要を理解し、福祉科目を修学することで得る知識・社会的素養を考える。			
第 3回：専門科目の模擬授業を実施するにあたっての留意点 ・専門科目を高校生に教示する際に、留意する点や公正な観点から見た指導法を理解する。			
第 4回：福祉科目「社会福祉基礎」の教科理解（社会福祉の理念と意義） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 5回：福祉科目「社会福祉基礎」の教科理解（人間関係とコミュニケーション） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 6回：福祉科目「社会福祉基礎」の教科理解（社会福祉思想と社会保障制度） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 7回：福祉科目「介護福祉基礎」の教科理解（介護の意義と役割） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 8回：福祉科目「介護福祉基礎」の教科理解（介護福祉の担い手） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 9回：福祉科目「介護福祉基礎」の教科理解（介護を必要とする人の理解、安全確保と危機管理） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			

<p>第10回：福祉科目「コミュニケーション技術」の教科理解（福祉実践におけるコミュニケーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。 <p>第11回：福祉科目「コミュニケーション技術」の教科理解（サービス利用者や家族とのコミュニケーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。 <p>第12回：福祉科目「コミュニケーション技術」の教科理解（チームのコミュニケーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。 <p>第13回：福祉科目「生活支援技術」の教科理解（生活支援の理解と自立に向けた生活支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。 <p>第14回：福祉科目「生活支援技術」の教科理解（緊急時・災害時、終末期の支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。 <p>第15回：福祉科目「生活支援技術」の教科理解（医療的ケア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。 <p>定期試験：レポート試験</p>
<p>テキスト：高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成30年7月 文部科学省）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適時で資料プリントを配布</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内での発表（40%）、レポート試験（60%）遅刻・欠席は原則として認めない。</p>

授業科目名： 福祉科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大場敬太 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 福祉の各分野について体系的・系統的に理解し、倫理観を踏まえた想像力と実践力を身につけることができる。			
授業の概要 本講義は福祉科教育法Ⅰが履修済みであることを前提に実施する内容である。引き続き、福祉科目の教材研究と模擬授業を通じて教科指導の実際に沿って学ぶ機会を設定する。適時で振り返りをおこないながら得た知識を深化させ、実践的な力を修得していく。			
授業計画			
第 1回：振り返り ・これまでの講義を振り返り、模擬授業での改善点や伸ばすべき点を確認し修正等を行う。			
第 2回：福祉科目「介護過程」の教科理解（介護過程の意義と役割、展開） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 3回：福祉科目「介護過程」の教科理解（介護過程の実践的過程） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 4回：福祉科目「介護過程」の教科理解（介護過程のチームアプローチ） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 5回：福祉科目「介護総合演習」の教科理解（介護演習） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 6回：福祉科目「介護総合演習」の教科理解（事例研究） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 7回：福祉科目「介護総合演習」の教科理解（調査、研究、実践） ・40分程度の模擬授業を行い、当該科目の指導方法を実践的に理解する。			
第 8回：福祉科目「福祉情報」の教科理解（情報社会と福祉サービス） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第 9回：福祉科目「福祉情報」の教科理解（情報モラル、セキュリティ、福祉サービスと情報機器） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第10回：福祉科目「こころとからだの理解」の教科理解（こころとからだの基礎的理解） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			
第11回：福祉科目「こころとからだの理解」の教科理解（発達と老化） ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。			

第12回：福祉科目「こころとからだの理解」の教科理解（認知症と障害）

- ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。

第13回：福祉科目「介護実習」の教科理解（多様な介護）

- ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。

第14回：福祉科目「介護実習」の教科理解（個別ケアの理解）

- ・テキストと資料を使用し、課程内で取り組む学習内容と目標・社会的素養を理解する。

第15回：学習のまとめ

- ・これまでの学習内容を振り返り、福祉科教育の指導案について作成を行う。

定期試験：レポート試験

テキスト：高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 福祉編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

適時で資料プリントを配布

学生に対する評価

授業内での発表（40%）、レポート試験（60%）遅刻・欠席は原則として認めない。

授業科目名： 憲法	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）	単位数： 2単位	担当教員名：森脇敦史 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（高等学校福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：市民社会の基盤である憲法の内容とその意義の理解 到達目標：具体的な社会問題を、憲法の条文及びその解釈と結びつけながら説明できる。			
授業の概要 憲法は、国家権力を制限する法であるのと同時に、国家権力を可能とする法でもある。本講義では、国民主権、基本的人権、平和主義といった憲法の基礎概念を、具体的な事案と照らし合わせて解説することで、社会問題をより深く学ぶ基礎を作り、社会に生きる市民として必要な知識及び推論方法を習得することを目的とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス、憲法総論 第2回：人権総論①（人権の概念と主体） 第3回：人権総論②（制約原理、適用範囲） 第4回：幸福追求権 第5回：平等権、家族に関する権利 第6回：思想・良心の自由 第7回：信教の自由 第8回：表現の自由①（総論、内容規制） 第9回：表現の自由②（内容中立規制、取材の自由） 第10回：経済的自由（職業選択の自由、財産権） 第11回：社会権①（生存権） 第12回：社会権②（教育を受ける権利、労働者の権利） 第13回：参政権 第14回：平和主義①（憲法9条と自衛権、自衛隊・日米安全保障条約） 第15回：平和主義②（冷戦終結後の安全保障）			
定期試験			
テキスト：君塚正臣・森脇敦史編『ベーシックテキスト憲法（第4版）』（法律文化社・2023年）			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価：定期試験70%、授業内レポート・小テスト30%			

授業科目名： 健康科学実習 I	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）	単位数： 1 単位	担当教員名：池田 孝博、中 原 雄一 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目（高等学校 福 祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：自らの健康の維持・増進を図るための方法がわかる。 到達目標：スポーツ活動に主体的に取り組み、安全に実施することができる。また、体力テストの結果をもとに、レポートを作成することができる。			
授業の概要 健康でいきいきとした大学生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。健康科学実習 I では、健康の維持・増進と関係の深い身体機能および運動能力に関する正しい知識を学習し、健康的な生活を営むための態度を身につける。本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。なお、本実習は体力差や人数等を考慮し、男女別に実施する。			
授業計画 第 1 回：ガイダンス 第 2 回：体力テスト①（50m 走・ソフトボール投げ・反復横跳び・上体起こし・立ち幅跳び） 第 3 回：体力テスト②（20m シャトルラン・握力・長座体前屈） 第 4 回：コミュニケーションを目的とした運動 第 5 回：ニュースポーツ①（フライングディスク - 競技種目と投げ方） 第 6 回：ニュースポーツ②（フライングディスク - アキュラシー、MTA、TRC） 第 7 回：ニュースポーツ③（フライングディスク - ディスクゴルフ） 第 8 回：ニュースポーツ④（インディアカ - ルール説明と基本練習） 第 9 回：ニュースポーツ⑤（インディアカ - 応用練習とゲーム） 第 10 回：健康科学におけるデータ解析 第 11 回：水泳・水中運動①（水中歩行） 第 12 回：水泳・水中運動②（自由形） 第 13 回：水泳・水中運動③（平泳ぎ、背泳ぎ） 第 14 回：水泳・水中運動④（水球） 第 15 回：まとめ（授業の振り返り、レポート提出） 定期試験は実施しない			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：適宜指示する。			
学生に対する評価：レポート 20%、その他 80%			

授業科目名： 健康科学実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）	単位数： 1単位	担当教員名：池田 孝博、中 原 雄一 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：スポーツ活動への参加による自らの体力の変化について、客観的に評価する。 到達目標：スポーツ活動に主体的に取り組み、安全に実施することができる。また、体力テストの結果をもとに、1年間の体力の変化について客観的に評価することができる。			
授業の概要 健康でいきいきとした大学生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。健康科学実習Ⅱでは、スポーツ種目の対抗戦を実施することで、各スポーツ種目の技術向上を図るとともに、メンタルヘルスやコミュニケーション能力の向上を目指す。本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。なお、本実習は体力差や人数等を考慮し、男女別々に実施する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：スポーツ実習①（アルティメット-ルール説明と基本練習） 第3回：スポーツ実習②（アルティメット-応用練習とミニゲーム） 第4回：スポーツ実習③（アルティメット-対抗戦） 第5回：スポーツ実習④（バドミントン-基本練習） 第6回：スポーツ実習⑤（バドミントン-ゲーム①（シングルス）） 第7回：スポーツ実習⑥（バドミントン-ゲーム②（ダブルス）） 第8回：スポーツ実習⑦（バスケットボール-基本練習） 第9回：スポーツ実習⑧（バスケットボール-応用練習とミニゲーム） 第10回：スポーツ実習⑨（バスケットボール-対抗戦） 第11回：スポーツ実習⑩（サッカー-基本練習とミニゲーム） 第12回：スポーツ実習⑪（サッカー-応用練習と対抗戦） 第13回：健康科学におけるデータ解析 第14回：体力テスト①（50m走・ソフトボール投げ・反復横跳び・上体起こし・立ち幅跳び） 第15回：体力テスト②（20mシャトルラン・握力・長座体前屈） 定期試験は実施しない			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：適宜指示する。			
学生に対する評価：レポート20%、その他80%			

授業科目名： スピーキング・ リスニング上級（1）	教員の免許状取得のための 選択科目（高免）	単位数： 1単位	担当教員名： イアン スチュアート ゲイル
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：This advanced-level course will facilitate the development of critical-thinking skills and oral fluency in English. この授業は英語で批判的思考を行うスキルと口頭でのコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>到達目標：To an advanced level, students will be able to orally express and substantiate opinions on each of the course topics in English.</p> <p>学生は各回のトピックに対して、英語で自身の意見を表現し、根拠づけて説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The aim of this advanced-level course is to develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions and other task-based communicative activities.</p> <p>この科目の目的は、英語での口頭の流暢さ（話すことと聞くこと）に関するコミュニケーション能力の向上である。各回はその回ごとのトピックに基づいており、社会問題に関して複数の文化からの精査を行う。学生はグループ・ディスカッション、その他のタスク・ベースのコミュニケーション活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction to the course; Textbook Unit 1 (The Science of Shopping), part 1 コースの紹介、教科書ユニット1（ショッピングの科学）、パート1</p> <p>第2回：Textbook Unit 1 (The Science of Shopping), part 2 教科書ユニット1（ショッピングの科学）、パート2</p> <p>第3回：Textbook Unit 1 (The Science of Shopping), part 3 教科書ユニット1（ショッピングの科学）、パート3</p> <p>第4回：Textbook Unit 2 (Mother Nature), part 1 教科書ユニット2（母なる自然）、パート1</p> <p>第5回：Textbook Unit 2 (Mother Nature), part 2 教科書ユニット2（母なる自然）、パート2</p> <p>第6回：Textbook Unit 2 (Mother Nature), part 3 教科書ユニット2（母なる自然）パート3</p> <p>第7回：Textbook Unit 3 (On the Move), part 1 教科書ユニット3（移動中）、パート1</p> <p>第8回：Textbook Unit 3 (On the Move), part 2</p>			

教科書ユニット3 (移動中)、パート2

第9回 : Textbook Unit 3 (On the Move), part 3

教科書ユニット3 (移動集)、パート3

第10回 : Textbook Unit 4 (Our Changing Planet), part 1

教科書ユニット4 (私たちの変化する惑星)、パート1

第11回 : Textbook Unit 4 (Our Changing Planet), part 2

教科書ユニット4 (私たちの変化する惑星)、パート2

第12回 : Textbook Unit 4 (Our Changing Planet), part 3

教科書ユニット4 (私たちの変化する惑星)、パート3

第13回 : Textbook Unit 5 (Making a Living, Making a Difference), part 1

教科書ユニット5 (生活をし、変化をもたらす)、パート1

第14回 : Textbook Unit 5 (Making a Living, Making a Difference), part 2

教科書ユニット5 (生活をし、変化をもたらす)、パート2

第15回 : Textbook Unit 5 (Making a Living, Making a Difference), part 3; end-of-semester exam preparation

教科書ユニット5 (生活をし、変化をもたらす)、パート3、学期末試験の準備

定期試験 (oral presentation) 口頭発表

テキスト: Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 3 (2nd edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee

published by National Geographic Learning (Cengage Learning).

参考書・参考資料等 : 適宜、資料を配付する。

学生に対する評価 : 定期試験50%、授業内レポート・小テスト30%、授業外レポート20%

授業科目名： スピーキング・ リスニング中級（1）	教員の免許状取得のための 選択科目（高免）	単位数： 1単位	担当教員名：石川 悠子 プリチャード・ジェームズ 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：This intermediate-level course will facilitate the development of critical-thinking skills and oral fluency in English. この授業は英語で批判的思考を行うスキルと口頭でのコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>到達目標：To an intermediate level, students will be able to orally express and substantiate opinions on each of the course topics in English.</p> <p>学生は各回のトピックに対して、英語で自身の意見を表現し、根拠づけて説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The aim of this intermediate-level course is to develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions and other task-based communicative activities.</p> <p>この科目の目的は、英語での口頭の流暢さ（話すことと聞くこと）に関するコミュニケーション能力の向上である。各回はその回ごとのトピックに基づいており、社会問題に関して複数の文化からの精査を行う。学生はグループ・ディスカッション、その他のタスク・ベースのコミュニケーション活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction to the course; Textbook Unit 1 (Healthy Lives), part 1 コース紹介、教科書ユニット1（健康生活）、パート1</p> <p>第2回：Textbook Unit 1 (Healthy Lives), part 2 教科書ユニット1（健康生活）、パート2</p> <p>第3回：Textbook Unit 1 (Healthy Lives), part 3 教科書ユニット1（健康生活）、パート3</p> <p>第4回：Textbook Unit 2 (Technology Today and Tomorrow), part 1 教科書ユニット2（テクノロジーの今日と明日）、パート1</p> <p>第5回：Textbook Unit 2 (Technology Today and Tomorrow), part 2 教科書ユニット2（テクノロジーの今日と明日）、パート2</p> <p>第6回：Textbook Unit 2 (Technology Today and Tomorrow), part 3 教科書ユニット2（テクノロジーの今日と明日）、パート3</p> <p>第7回：Textbook Unit 3 (Culture and Tradition), part 1 教科書ユニット3（文化と伝統）、パート1</p> <p>第8回：Textbook Unit 3 (Culture and Tradition), part 2</p>			

教科書ユニット3 (文化と伝統) 、パート2

第9回 : Textbook Unit 3 (Culture and Tradition), part 3

教科書ユニット3 (文化と伝統) 、パート3

第10回 : Textbook Unit 4 (A Thirsty World), part 1

教科書ユニット4 (渴いた世界) 、パート1

第11回 : Textbook Unit 4 (A Thirsty World), part 2

教科書ユニット4 (渴いた世界) 、パート2

第12回 : Textbook Unit 4 (A Thirsty World), part 3

教科書ユニット4 (渴いた世界) 、パート3

第13回 : Textbook Unit 5 (Inside the Brain), part 1

教科書ユニット5 (脳の内側) 、パート1

第14回 : Textbook Unit 5 (Inside the Brain), part 2

教科書ユニット5 (脳の内側) 、パート2

第15回 : Textbook Unit 5 (Inside the Brain), part 3; end-of-semester exam preparation

教科書ユニット5 (脳の内側) 、パート3、学期末試験の準備

定期試験 (oral presentation)

テキスト: Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 3 (2nd edition) by Becky Tarver Chase

published by National Geographic Learning (Cengage Learning).

参考書・参考資料等 : 適宜、資料を配付する。

学生に対する評価 : 定期試験50%、授業内レポート・小テスト30%、授業外レポート20%

授業科目名： スピーキング・ リスニング初級（1）	教員の免許状取得のための 選択科目（高免）	単位数： 1単位	担当教員名： 田吹 香子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：This beginner-level course will facilitate the development of critical-thinking skills and oral fluency in English. この授業は英語で批判的思考を行うスキルと口頭でのコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>到達目標：To a beginner level, students will be able to orally express and substantiate opinions on each of the course topics in English.</p> <p>学生は各回のトピックに対して、英語で自身の意見を表現し、根拠づけて説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The aim of this beginner-level course is to develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions and other task-based communicative activities.</p> <p>この科目の目的は、英語での口頭の流暢さ（話すことと聞くこと）に関するコミュニケーション能力の向上である。各回はその回ごとのトピックに基づいており、社会問題に関して複数の文化からの精査を行う。学生はグループ・ディスカッション、その他のタスク・ベースのコミュニケーション活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction to the course; Textbook Unit 1 (Living for Work), part 1 コースの紹介、教科書ユニット1（働くための生活）、パート1</p> <p>第2回：Textbook Unit 1 (Living for Work), part 2 教科書ユニット1（働くための生活）、パート2</p> <p>第3回：Textbook Unit 1 (Living for Work), part 3 教科書ユニット1（働くための生活）、パート3</p> <p>第4回：Textbook Unit 2 (Good Times, Good Feelings), part 1 教科書ユニット2（良い時間、良い感覚）、パート1</p> <p>第5回：Textbook Unit 2 (Good Times, Good Feelings), part 2 教科書ユニット2（良い時間、良い感覚）、パート2</p> <p>第6回：Textbook Unit 2 (Good Times, Good Feelings), part 3 教科書ユニット2（良い時間、良い感覚）、パート3</p> <p>第7回：Textbook Unit 3 (The Marketing Machine), part 1 教科書ユニット3（マーケティングマシーン）、パート1</p> <p>第8回：Textbook Unit 3 (The Marketing Machine), part 2</p>			

教科書ユニット3 (マーケティングマシーン) 、パート2

第9回 : Textbook Unit 3 (The Marketing Machine), part 3

教科書ユニット3 (マーケティングマシーン) 、パート3

第10回 : Textbook Unit 4 (Wild Weather), part 1

教科書ユニット4 (荒れた天気) 、パート1

第11回 : Textbook Unit 4 (Wild Weather), part 2

教科書ユニット4 (荒れた天気) 、パート2

第12回 : Textbook Unit 4 (Wild weather), part 3

教科書ユニット4 (荒れた天気) パート3

第13回 : Textbook Unit 5 (Focus on Food), part 1

教科書ユニット5 (食へのこだわり) 、パート1

第14回 : Textbook Unit 5 (Focus on Food), part 2

教科書ユニット5 (食へのこだわり)

第15回 : Textbook Unit 5 (Focus on Food), part 3; end-of-semester exam preparation

教科書ユニット5 (食へのこだわり) 、パート3、学期末試験の準備

定期試験 (oral presentation) 口頭発表

テキスト; Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 1 (2nd edition) by Becky Tarver Chase

published by National Geographic Learning (Cengage Learning).

参考書・参考資料等 : 適宜、資料を配付する。

学生に対する評価 : 定期試験50%、授業内レポート・小テスト30%、授業外レポート20%

授業科目名： スピーキング・ リスニング上級 (2)	教員の免許状取得のための 選択科目 (高免)	単位数： 1単位	担当教員名： イブ スチュアート ゲイル
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6条の6に定める科目 (高等学校 福祉)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：This advanced-level course will further facilitate the development of critical-thinking skills and oral fluency in English.</p> <p>この授業は英語で批判的思考を行うスキルと口頭でのコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>到達目標：To an advanced level, students will be able to orally express and substantiate opinions on each of the course topics in English.</p> <p>学生は各回のトピックに対して、英語で自身の意見を表現し、根拠づけて説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The aim of this advanced-level course is to further develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions and other task-based communicative activities.</p> <p>この科目の目的は、英語での口頭の流暢さ（話すことと聞くこと）に関するコミュニケーション能力の向上である。各回はその回ごとのトピックに基づいており、社会問題に関して複数の文化からの精査を行う。学生はグループ・ディスカッション、その他のタスク・ベースのコミュニケーション活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction to the course; Textbook Unit 6 (Design with Purpose), part 1 コースの紹介、教科書ユニット6（目的に応じた設計）、パート1</p> <p>第2回：Textbook Unit 6 (Design with Purpose), part 2 教科書ユニット6（目的に応じた設計）、パート2</p> <p>第3回：Textbook Unit 6 (Design with Purpose), part 3 教科書ユニット6（目的に応じた設計）、パート3</p> <p>第4回：Textbook Unit 7 (Inspired to Protect), part 1 教科書ユニット7（守るために鼓舞する）、パート1</p> <p>第5回：Textbook Unit 7 (Inspired to Protect), part 2 教科書ユニット7（守るために鼓舞する）、パート2</p> <p>第6回：Textbook Unit 7 (Inspired to Protect), part 3 教科書ユニット7（守るために鼓舞する）、パート3</p> <p>第7回：Textbook Unit 8 (Traditional and Modern Medicine), part 1 教科書ユニット8（伝統的で現代的な薬）、パート1</p>			

第8回：Textbook Unit 8 (Traditional and Modern Medicine), part 2

教科書ユニット8 (伝統的で現代的な薬)、パート2

第9回：Textbook Unit 8 (Traditional and Modern Medicine), part 3

教科書ユニット8 (伝統的で現代的な薬)、パート3

第10回：Textbook Unit 9 (Uncovering the Past), part 1

教科書ユニット9 (過去の清算)、パート1

第11回：Textbook Unit 9 (Uncovering the Past), part 2

教科書ユニット9 (過去の清算)、パート2

第12回：Textbook Unit 9 (Uncovering the Past), part 3

教科書ユニット9 (過去の清算)、パート3

第13回：Textbook Unit 10 (Emotions and Personality), part 1

教科書ユニット10 (感情と性格)、パート1

第14回：Textbook Unit 10 (Emotions and Personality), part 2

教科書ユニット10 (感情と性格)、パート2

第15回：Textbook Unit 10 (Emotions and Personality), part 3; end-of-semester exam preparation

教科書ユニット10 (感情と性格)、パート3、学期末試験の準備

定期試験 (oral presentation) 口頭発表

テキスト: Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 3 (2nd edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee

published by National Geographic Learning (Cengage Learning).

参考書・参考資料等：適宜、資料を配付する。

学生に対する評価：定期試験50%、授業内レポート・小テスト30%、授業外レポート20%

授業科目名： スピーキング・ リスニング中級 (2)	教員の免許状取得のための 選択科目 (高免)	単位数： 1単位	担当教員名：石川 悠子 プリッチャード・ジェームズ 担当形態：クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：This intermediate-level course will further facilitate the development of critical-thinking skills and oral fluency in English.</p> <p>この授業は英語で批判的思考を行うスキルと口頭でのコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>到達目標：To an intermediate level, students will be able to orally express and substantiate opinions on each of the course topics in English.</p> <p>学生は各回のトピックに対して、英語で自身の意見を表現し、根拠づけて説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The aim of this intermediate-level course is to further develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions and other task-based communicative activities.</p> <p>この科目の目的は、英語での口頭の流暢さ（話すことと聞くこと）に関するコミュニケーション能力の向上である。各回はその回ごとのトピックに基づいており、社会問題に関して複数の文化からの精査を行う。学生はグループ・ディスカッション、その他のタスク・ベースのコミュニケーション活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Textbook Unit 6 (Let's Eat!), part 1 教科書ユニット6 (食べましょう!)、パート1</p> <p>第2回：Textbook Unit 6 (Let's Eat!), part 2 教科書ユニット6 (食べましょう!)、パート2</p> <p>第3回：Textbook Unit 6 (Let's Eat!), part 3 教科書ユニット6 (食べましょう!)、パート3</p> <p>第4回：Textbook Unit 7 (Our Active Earth), part 1 教科書ユニット7 (私たちの活動的な地球)、パート1</p> <p>第5回：Textbook Unit 7 (Our Active Earth), part 2 教科書ユニット7 (私たちの活動的な地球)、パート2</p> <p>第6回：Textbook Unit 7 (Our Active Earth), part 3 教科書ユニット7 (私たちの活動的な地球)、パート3</p> <p>第7回：Textbook Unit 8 (Wonders from the Past), part 1 教科書ユニット8 (過去の不思議)、パート1</p>			

第8回：Textbook Unit 8 (Wonders from the Past), part 2

教科書ユニット8 (過去の不思議)、パート2

第9回：Textbook Unit 8 (Wonders from the Past), part 3

教科書ユニット8 (過去の不思議)、パート3

第10回：Textbook Unit 9 (Species Survival), part 1

教科書ユニット9 (種の生存)、パート1

第11回：Textbook Unit 9 (Species Survival), part 2

教科書ユニット9 (種の生存)、パート2

第12回：Textbook Unit 9 (Species Survival), part 3

教科書ユニット9 (種の生存)、パート3

第13回：Textbook Unit 10 (Entrepreneurs and Innovators), part 1

教科書ユニット10 (起業家とイノベーター)、パート1

第14回：Textbook Unit 10 (Entrepreneurs and Innovators), part 2

教科書ユニット10 (起業家とイノベーター)、パート2

第15回：Textbook Unit 10 (Entrepreneurs and Innovators), part 3; end-of-semester exam preparation

教科書ユニット10 (起業家とイノベーター)、パート3、学期末試験の準備

定期試験 (oral presentation) 口頭発表

テキスト: Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 3 (2nd edition) by Becky Tarver Chase

published by National Geographic Learning (Cengage Learning).

参考書・参考資料等：適宜、資料を配付する。

学生に対する評価：定期試験50%、授業内レポート・小テスト30%、授業外レポート20%

授業科目名： スピーキング・ リスニング初級 (2)	教員の免許状取得のための 選択科目 (高免)	単位数： 1単位	担当教員名：田吹香子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：This beginner-level course will further facilitate the development of critical-thinking skills and oral fluency in English.</p> <p>この授業は英語で批判的思考を行うスキルと口頭でのコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>到達目標：To a beginner level, students will be able to orally express and substantiate opinions on each of the course topics in English.</p> <p>学生は各回のトピックに対して、英語で自身の意見を表現し、根拠づけて説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>The aim of this beginner-level course is to further develop communicative competence with regard to oral fluency (speaking and listening) in English. Each class is topic-based and will present a cross-cultural examination of a social issue. Students will participate in group discussions and other task-based communicative activities.</p> <p>この科目の目的は、英語での口頭の流暢さ（話すことと聞くこと）に関するコミュニケーション能力の向上である。各回はその回ごとのトピックに基づいており、社会問題に関して複数の文化からの精査を行う。学生はグループ・ディスカッション、その他のタスク・ベースのコミュニケーション活動を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Textbook Unit 6 (Housing for the Future), part 1 教科書ユニット6 (未来のための住宅)、パート1</p> <p>第2回：Textbook Unit 6 (Housing for the Future), part 2 教科書ユニット6 (未来のための住宅)、パート2</p> <p>第3回：Textbook Unit 6 (Housing for the Future), part 3 教科書ユニット6 (未来のための住宅)、パート3</p> <p>第4回：Textbook Unit 7 (Exploring Space), part 1 教科書ユニット7 (宇宙探査)、パート1</p> <p>第5回：Textbook Unit 7 (Exploring Space), part 2 教科書ユニット8 (宇宙探査)、パート2</p> <p>第6回：Textbook Unit 7 (Exploring Space), part 3 教科書ユニット7 (宇宙探査)、</p> <p>第7回：Textbook Unit 8 (Creative Arts), part 1 教科書ユニット8 (創造的なアート)、パート1</p>			

第8回 : Textbook Unit 8 (Creative Arts), part 2

教科書ユニット8 (創造的なアート)、パート2

第9回 : Textbook Unit 8 (Creative Arts), part 3

教科書ユニット8 (創造的なアート)、パート3

第10回 : Textbook Unit 9 (Our relationship with Nature), part 1

教科書ユニット9 (自然と私たちの関係)、パート1

第11回 : Textbook Unit 9 (Our relationship with Nature), part 2

教科書ユニット9 (自然と私たちの関係)、パート2

第12回 : Textbook Unit 9 (Our relationship with Nature), part 3

教科書ユニット9 (自然と私たちの関係)、パート3

第13回 : Textbook Unit 10 (How we Communicate), part 1

教科書ユニット10 (私たちのコミュニケーション方法)、パート1

第14回 : Textbook Unit 10 (How we Communicate), part 2

教科書ユニット10 (私たちのコミュニケーション方法)、パート2

第15回 : Textbook Unit 10 (How we Communicate), part 3; end-of-semester exam preparation

教科書ユニット10 (私たちのコミュニケーション方法)、パート3、学期末試験の準備

定期試験 (oral presentation) 口頭発表

テキスト; Pathways Listening, Speaking, and Critical Thinking 1 (2nd edition) by Becky Tarver Chase

published by National Geographic Learning (Cengage Learning).

参考書・参考資料等 : 適宜、資料を配付する。

学生に対する評価 : 定期試験50%、授業内レポート・小テスト30%、授業外レポート20%

授業科目名：情報処理の 基礎と演習	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）	単位数： 2単位	担当教員名：柴田 雅博 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・ 情報機器の操作 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：・ICT機器およびネットワークに関する基礎知識と基本的技能を身に付ける。 ・ICT機器を安全に活用するための基礎的なセキュリティ知識を身に付ける。</p> <p>到達目標：ICTを活用し、大学の授業に必要な調査、レポート作成、発表などを問題なく行える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本学専門教育を受ける際に必修となる情報基礎スキルの習得を目的とする。レポート作成や課題発表に必要な基礎知識として、パソコンの基本操作、Wordを使った文書作成、Excelを使った表計算・グラフ作成、PowerPointを使った発表資料の作成を学習する。インターネットを利用し効率的に情報検索を行う方法を学習する。ICT機器やインターネットの利用に対する基礎的なセキュリティ知識を学習する。社会におけるICTやデータ活用についても学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：社会におけるICT、Windowsの基本操作、学内情報システム活用</p> <p>第2回：インターネットの利用：電子メールの書き方、インターネットの概要、Web検索、 その他ネットワークサービスの利用</p> <p>第3回：情報セキュリティ：情報機器利用に対するトラブル、情報セキュリティ対策、ネットリテラシー、著作権など</p> <p>第4回：Wordを使った文書作成：文字入力、文字修飾、印刷、保存</p> <p>第5回：Wordを使った文書作成：書式設定、文書の体裁（1）（引用、脚注）</p> <p>第6回：Wordを使った文書作成：文書の体裁（2）（タブとリーダー、ページ番号）</p> <p>第7回：Wordを使った文書作成：表と図の挿入</p> <p>第8回：PowerPointを使った発表資料の作成：基本的なスライドの作成</p> <p>第9回：PowerPointを使った発表資料の作成：図表の挿入、図形の挿入</p> <p>第10回：PowerPointを使った発表資料の作成：アニメーション</p> <p>第11回：PowerPointを使った発表資料の作成：写真の編集、飾り文字</p> <p>第12回：Excelを使った表計算：表の作成</p> <p>第13回：Excelを使った表計算：関数</p> <p>第14回：Excelを使った表計算：グラフ</p> <p>第15回：Excelを使った表計算：データベースとしての利用</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト：</p> <p>矢野文彦『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2019+Access対応版』，オーム社，2019</p>			
<p>参考書・参考資料等：なし</p>			
<p>学生に対する評価：授業演習課題60%、授業態度・参加度40%</p>			

授業科目名： 教育学概論B	教員の免許状取得のための 必修科目(高免)(中免)(養免)	単位数： 2単位	担当教員名：藤澤健一 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 教育に関する基礎的概念、教育の理念と思想にかかわる基礎的事項を修得する。教育の本質及び目標を理解できる。子ども・教員・家庭・学校などの相互関係を理解できる。家庭・子ども・学習にかかわる教育思想を理解できる。			
授業の概要 教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的に考察するための学問である。本講義では、受講者による調査、グループワークをはじめ、知識の実践的な活用を体験することを通じて、教育の理念と思想、目標にかかわる教育学の基礎的概念を修得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（教育の概念・本質・目標） 第2回：教育の歴史と現代的な課題 第3回：教育の理念と思想（家庭教育と近代学校教育の理念と思想） 第4回：「教育」の理念とは何か―これまでの体験から考える（グループワーク） 第5回：教育の本質と目標（陶冶論、科学としての教育学の成立） 第6回：教育の本質と目標（家庭教育、家庭における人間形成の基礎的概念） 第7回：教育の本質と目標（学校教育、現代の学校を取り巻く社会的要素と相互の関係性） 第8回：近代教育制度の成立と展開（義務制・無償制・中立性の理念と現代的な教育課題） 第9回：現代日本の家庭教育と学校教育の歴史的展開 第10回：教育課題の歴史と現状―「学力」を中心に 第11回：子供と家庭教育の教育思想（ルソー『エミール』における発達段階と子どもの発見） 第12回：子供と家庭教育の教育思想（ルソー『エミール』における経験主義と体験学習） 第13回：学校と学習の教育思想 （デューイ『学校と社会』における学習活動、教育の現代的課題と問題解決学習） 第14回：学校と学習の教育思想 （子ども中心主義の学習活動、大正自由教育からアクティブ・ラーニングまで） 第15回：講義全体の振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト：大田堯『ひとなる』藤原書店、「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」			
参考書・参考資料等 酒井朗『教育臨床社会学の可能性』勁草書房			
学生に対する評価 毎時間、提出するレスポンス・カードの内容（10%）、課題ごとに課されるレポート（50%）、グループワークでのプレゼンテーション（40%）を総合的に評価する。			

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目（高免）（中免）	単位数： 2単位	担当教員名：藤澤健一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の歴史に関する基礎的知識、家庭教育と学校教育、社会環境の関係を実践的に修得する。家族と社会による教育の歴史を理解できる。近代教育制度の成立と展開を理解できる。現代社会における教育課題を歴史的に理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に近現代日本教育史を素材とし、教育に関する様々な思想、教育理念の検討を通じて教育の本質について深く考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：教育の基礎的概念（代表的な教育思想）</p> <p>第3回：日本の学校教育の理念と思想・歴史（近代教育制度の成立と展開）</p> <p>第4回：現代日本の教育と家族・社会の変化（占領期）</p> <p>第5回：現代日本の教育と家族・社会の変化（高度経済成長期）</p> <p>第6回：現代日本の教育と家族・社会の変化（低成長期から現在）</p> <p>第7回：日本の教育政策の課題と現在の動向</p> <p>第8回：日本の入試制度改革の歴史と現在の動向</p> <p>第9回：日本の子どもの貧困の歴史と現在の動向</p> <p>第10回：学習指導要領・教育課程の歴史（1960年代まで）</p> <p>第11回：学習指導要領・教育課程の歴史（1970年代から1990年代）</p> <p>第12回：学習指導要領・教育課程の歴史（2000年代以後）</p> <p>第13回：現代日本の社会と教育課題（いじめの歴史）</p> <p>第14回：現代日本の社会と教育課題（不登校の歴史）</p> <p>第15回：現代日本の社会と教育課題（校内暴力の歴史）</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト 日本児童教育振興財団『学校教育の戦後70年史』小学館、「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」</p> <p>参考書・参考資料等：杉田敦編『終焉する昭和』岩波書店、荻谷剛彦編『バブル崩壊』岩波書店</p> <p>学生に対する評価</p> <p>毎時間、提出するレスポンス・カードの内容（10%）、課題ごとに課されるレポート（50%）、グループワークでのプレゼンテーション（40%）を総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 2単位	担当教員名：藤澤健一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義を理解し、授業づくりや生徒指導など学校教育において教員に求められる資質と能力を修得する。教職への意欲を高め、自己の特性と適性を判断する。教職の存在意義、職業的な特徴を理解できる。教員の役割、職務内容や服務上・身分上の義務を理解できる。専門家との連携やチームとしての組織的取り組みの重要性を理解できる。			
授業の概要 本講義では、教師のあり方を実践的、反省的に学ぶ。現在の教師が置かれている社会的な環境について、事例に即して学ぶ。教師の職務について、身近な内容に即して考察することで、教師の卵としての自覚と素養、使命感を身につける。くわえて授業技術の向上をめざし、人前で話す体験を重ねる。本講義は、教職課程の導入的な講義の一環であり、受講者には主体的な参画がよよく求められる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（教師とはなにか、その社会的意義について） 第2回：養成制度 第3回：採用制度（採用試験の仕組み） 第4回：研修制度（免許更新制度、職能成長） 第5回：服務義務、身分上の保障 第6回：学校組織（職位と校務分掌） 第7回：学校組織（チーム学校について） 第8回：求められる教師としての役割と資質能力（ICT活用能力、生徒指導、不登校、いじめ） 第9回：求められる教師としての役割と資質能力（話し方、対人関係のつくりかた） 第10回：求められる教師としての役割と資質能力（道徳教育、総合的な学習の時間） 第11回：求められる教師としての役割と資質能力（SC、SSWとの連携） 第12回：求められる教師としての役割と資質能力（地域社会との連携） 第13回：教師の技法（授業における導入の方法） 第14回：教師の技法（授業における展開の事例、ICT活用事例） 第15回：教師の技法（主体的で対話的な深い学びをめざした授業づくり） 定期試験			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：文部科学省『魅力ある教員を求めて』、「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」			
学生に対する評価：ミニレポート（50%）、模擬授業（プレゼンテーション）（50%）を総合的に評価する。			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 2単位	担当教員名：坂巻 文彩 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、教育を社会学的な視点から考察し、現代社会における教育的諸課題とその背景に関する理解の深化を図りながら、教育に関する社会的・制度的問題の解決に必要なとなる基本的知見・視点を受講生が獲得できるようになることを目指す。			
授業の概要 現代社会が抱える教育課題を捉えるために、学校教育の社会的・制度的事項を社会学的視点から検討していく。			
授業計画 第1回：ガイダンス：教育社会学とは何か 第2回：教育の公共性 第3回：人間形成と社会化 第4回：階層・再生産と家族の教育的機能 第5回：公教育制度の基盤としての教育関連法規 第6回：学級運営と教師－生徒関係 第7回：教育行政の展開①－学校運営と家庭・地域社会との連携－ 第8回：教育行政の展開②－学校安全・防災と地域社会との連携－ 第9回：教育制度の国際比較 第10回：教育から職業への移行と就職活動 第11回：教育課題の社会学的諸相①－学校教育で再生産されるジェンダー－ 第12回：教育課題の社会学的諸相②－一部活動の「合理性」－ 第13回：教育課題の社会学的諸相③－「いじめ」問題の構造－ 第14回：教育課題の社会学的諸相④－少年犯罪についての認識とメディア－ 第15回：教育課題の社会学的諸相⑤－情報化社会と教育－ 定期試験は実施しない			
テキスト 初回に適宜紹介し、資料を配布する。			
参考書・参考資料等 中村高康・松岡亮二編著(2021)『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房 片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編(2017)『半径5メートルからの教育社会学』大月書店 荻谷剛彦(1995)『大衆教育社会のゆくえ』中公新書 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
学生に対する評価 レポート課題（80%） 授業への積極的な参加（20%）			

授業科目名： 発達心理学 I-A	教員の免許状取得のための 選択科目（高免）（中免） 必修科目（養免）	単位数： 2単位	担当教員名：池 志 保 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ：乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについて、概略が理解でき、理解した概略について、自ら考え、結論を見いだすことができる。理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。			
授業の概要：生涯発達の中で主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、発達段階に沿って学んでいく。幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。発達上の心身の障がいについても取り上げ、教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。			
授業計画			
第1回：発達とは何か：発達の科学、発達段階と発達課題、発達の要因、発達のグランドセオリー			
第2回：胎児期と周生期の発達：運動			
第3回：乳幼児期の知性の発達：知的能力・認知の発達段階（ピアジェの発生的認識論）、言語発達			
第4回：乳幼児期の社会性の発達：他者との関わりの発達、ことばとコミュニケーションの発達、 向社会性の発達			
第5回：児童期の知性の発達：知能、創造性、思考の発達、学力 幼児、児童・生徒の学習過程への応用（効果的な学習とは） 学習理論（外発的動機づけと内発的動機づけ）、幼児、児童・生徒のやる気を育む関わり （やる気と原因帰属、自己効力感との関係）、学習過程と知能、学習指導法			
第6回：児童期の社会性の発達：仲間関係、社会的問題解決、仲間関係のつまずきをもたらす問題、 ソーシャルスキル			
第7回：思春期の発達：生涯発達における思春期の位置づけ、身体と性の発達、他者との関係の発達、 社会の中での発達、思春期における出会い			
第8回：青年期の発達：青年期とは、自己への問い直し、アイデンティティの形成、青年期の友人関係、 青年期の恋愛			
第9回：成人前期の発達：成人前期とは、就職、結婚、自己、「Z次元」			
第10回：成人後期の発達：ライフサイクルの変化、成人後期の変化、成人後期におけるアイデンティティの危機			
第11回：老年期の発達：認知機能や知的能力の加齢変化、心理面の特徴、老年期の適応理論、老年期の 適応的变化、死の受容、生涯発達における老年期			
第12回：発達障害：主な発達障害とその特徴、発達障害のある子どもの支援			
第13回：発達の障がい各論（自閉スペクトラム症 ①臨床例）～視聴覚教材～			
第14回：発達の障がい各論（自閉スペクトラム症 ②コミュニケーションの特徴等）～視聴覚教材～			
第15回：まとめ			
定期試験			

テキスト：『スタンダード発達心理学（ライブラリ スタンダード心理学）』（櫻井茂男・佐藤有耕編、サイエンス社）

参考書・参考資料等：『発達心理学』（武藤隆・久保ゆかり・遠藤俊彦著、岩波書店）

『教職ベーシック 発達・学習の心理学【改訂版】』（柏崎秀子編著、北樹出版社）

『親と子の生涯発達心理学』（小野寺敦子著、勁草書房）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価：定期試験（60%）小テスト・授業内レポート（40%）

授業科目名： 教育心理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目（高免）（中免）	単位数： 2単位	担当教員名：小林 亮太 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 教育心理学に関する知見や理論を理解し、自分なりの言葉で説明できるようになることを目標とする。			
授業の概要 本授業では、教育に関わる様々な場面で必要であったり、役に立つと思われる知見や理論について説明を行う。また、知見や理論がどのように見いだされ、発展してきたのかについても言及することで、教育に関わる心理学の多面的な理解が進むようにする。教育場面では、児童生徒の個性や発達の特徴を踏まえた上で、対応や支援をしていくことが重要であり、本授業ではその基盤を形成することを目指す。			
授業計画 第1回：教育・発達心理学の概観：歴史と代表的な理論 第2回：代表的な学習理論：認知主義・行動主義 第3回：記憶と知識 第4回：ワーキングメモリとその発達 第5回：幼児、児童および生徒の運動・言語・認知発達：ピアジェの発達理論 第6回：発達障害：教育場面における支援方法 第7回：知能 第8回：メタ認知と批判的思考 第9回：動機づけと原因帰属 第10回：授業・学習形式の種類と効果：考える意欲を引き出す授業 第11回：授業の組み立て方：発達障害や多様性、アクセシビリティへの対応 第12回：学生評価、授業評価の仕組みと必要性 第13回：自尊心：良好な動機づけや健康状態を保つための支援 第14回：児童生徒の情緒・社会性の発達およびその支援 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等「教育心理学第2版：より充実した学びのために」多鹿秀継（2010）サイエンス社 「よくわかる教育心理学」中澤潤（2008）ミネルヴァ書房 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、小テスト・授業内レポート（45%）、その他（5%）			

授業科目名：特別の支援 を必要とする子供の理解	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 1単位	担当教員名：二見妙子 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育を含めた特別支援教育に関する制度や理念を歴史的に理解する。 ・特別な支援を必要とする児童生徒の障害の特性や心身の発達を理解する。 ・特別支援教育に関する教育課程の仕組みをふまえ、個別支援計画作成の意義と方法を理解する。 ・貧困や文化的背景から教育的ニーズのある子どもたちの支援と連携について理解する。 			
授業の概要			
テキストや関連資料を基に児童生徒の障害並びにそれに伴う困難の特性について知り、その学習上または生活上の困難を克服するための教育方法を学ぶ。さらに、特別支援教育制度の歴史的変遷と教育課程を把握する。			
授業計画			
第1回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み			
第2回：様々な障害のある子どもの発達特性と学習上又は生活上の困難と支援① (発達障害・知的障害等)			
第3回：様々な障害のある子供の発達特性と学習上又は生活上の困難と支援② (視覚障害・聴覚障害等)			
第4回：様々な障害のある子供の発達特性と学習上又は生活上の困難と支援③ (肢体不自由・病弱等)			
第5回：教育課程の構造（通級指導、自立活動等を含む）			
第6回：個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法			
第7回：特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難と対応 (母国語、貧困、不登校等)			
第8回：家庭、地域、専門支援機関等との連携支援			
定期試験は実施しない			
テキスト：			
インクルーシブ教育DB編『つまり「合理的配慮」ってこういうこと?!』（現代書館：平成29年）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
文科省特別支援教育関係の資料			
学生に対する評価			
授業レポート70%、発表意見・質疑30%			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 2単位	担当教員名：山田 明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学生が教育課程（カリキュラム）に関する基本的概念を理解し、学校における実践的展開についての資質・能力を修得することを目標とする。			
授業の概要 教育課程（カリキュラム）を理解する上で必要な概念、例えば、学習指導要領・教育評価・授業研究・カリキュラム・マネジメント等を整理しつつ、新学習指導要領の理念や学力問題などの今日的な課題を踏まえた上で、学生の発表や討論も活用しながら生きた授業を展開する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション ～学校教育における教育課程の意義～ 第2回：教育課程とカリキュラム 第3回：教育課程の編成方法（概論） 第4回：学習指導要領の変遷と教育課程の編成 第5回：学力調査（国内外）と教育課程の編成 第6回：学力論の変遷と教育課程の編成 第7回：授業研究と教育課程の編成 第8回：地域の実態を踏まえた教育課程の編成の在り方 第9回：学校の特色づくりと教育課程の編成の在り方 第10回：総合的な探究（学習）の時間と教育課程の編成の在り方 第11回：教材開発と教育課程の編成の原理 第12回：教育評価とカリキュラム評価 第13回：授業実践（授業研究を含む）を支えるカリキュラム・マネジメント 第14回：諸外国のカリキュラム 第15回：総括 定期試験は実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等 『教育学講義～教育の目的～』 樞歌書房 平成27年4月			
学生に対する評価 ①ワークシートの作成及びプレゼンテーション（20%） ②期末レポート（50%） ③授業への参加度／発表・討論等（30%）			

授業科目名：総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 1単位	担当教員名：菅沼 敬介 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な探究の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 必要な基礎的知識・技術を身につけて、学級担任として総合的な学習の時間の計画・指導・評価をおこなうことができるようになる。			
授業の概要 総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとしている。本授業では、中学校及び高等学校における総合的な学習の時間の目標・内容等について概説したうえで、実践事例の分析・検討を通して単元計画や教材開発、評価の方法等を理解し、中学校及び高等学校教員として総合的な学習の時間を計画し指導できる力を育てる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 総合的な学習の時間の全体像 第2回：理論編① 総合的な学習の時間の創設の背景・目標・内容 第3回：理論編② 総合的な学習の時間の実践事例の紹介・教材（課題）の設定 第4回：理論編③ 年間指導計画・単元計画（課題設定／情報の収集／整理・分析／まとめ・表現） 第5回：実践編① 集団別テーマ（課題）でのフリートークとそこから課題の発見 第6回：実践編② 各教科との関連性・課題の情報収集と整理分析 指導と評価 第7回：実践編③ 課題のまとめ・表現 まとめるにはどんなことをしたらいいのかな 第8回：指導案作成 単元の目標と評価・単元計画（構想） 定期試験は実施せず、レポート試験による。			
テキスト：中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 ① 参加（主体的に参加できているか、毎時間の成果物から評価します） … 20% ② 毎回の宿題・課題、授業の感想（毎回授業後に提出する感想から評価します） … 60% ③ 最終課題（提出された最終課題を総合的な規準で評価をします） … 20%			

授業科目名： 特別活動	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 1単位	担当教員名：脇田哲郎 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業の概要 特別活動の教育課程上の位置付けや「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という視点と特別活動で育成する資質・能力との関係や各活動・学校行事の学習過程や特質に応じた指導方法について理解する。特に、特別活動の核となる学級活動(1)の合意形成する授業づくりや学級活動(2)(3)の意思決定する授業づくりについてプランニングシートを活用して主体的、対話的で深い学びができるようにする。			
授業計画 第1回：特別活動の概要その1（特別活動の歴史的な変遷や特別活動の教育的な意義を理解する。） 第2回：特別活動の概要その2 （特別活動と各教科、総合的な探究の時間等との関連や特別活動の評価について理解する。） 第3回：特別活動の各活動・学校行事の指導法 （生徒会活動・学校行事の内容と特質を踏まえた指導法について理解する。） 第4回：ホームルーム活動(1)(2)(3)の特質の理解 （ホームルーム活動(1)、ホームルーム活動(2)、ホームルーム活動(3)の特質を理解する。） 第5回：ホームルーム活動(1)の指導法 （ホームルーム活動(1)「学級会」の授業をプランニングシートで構成する。） 第6回：ホームルーム活動(2)の指導法（ホームルーム活動(2)の授業をプランニングシートで構成する。） 第7回：ホームルーム活動(3)の指導法（ホームルーム活動(3)の授業をプランニングシートで構成する。） 第8回：特別活動と生徒指導の関係について（自発的・自治的活動と学級経営との関係を理解する。） 定期試験は実施しない。期末レポートを課す。			
テキスト：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編（平成30年7月 文部科学省） アクティベート教育学11「特別活動の理論と実践」（令和2年9月、ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価：1)発言や授業態度などの貢献度（10%）、2)授業の中に課すレポートの提出状況（40%）、3)期末の課題レポートの内容（50%）			

授業科目名： 教育の方法と実践	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 1単位	担当教員名：藤澤健一 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育方法における理論と実践、ならびに教育の目的に適した話法など、授業を実践する上での基礎的な資質と能力を修得する。これからの社会を担う子どもたちに必要な資質能力を育成するために必要な教育方法を理解できる。話法や板書など授業を行う上での基礎的な技術を修得する。基礎的な学習理論を踏まえ、適正な視点を含めた学習指導案を作成できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、基礎的な学習理論を踏まえて、教育方法の理論について、「主体的・対話的で深い学び」を中心に、必要な教材・教具、また教育評価について理解する。授業における話し方、板書の方法など、教師として必要な教育の技術を実践的に修得する。本講義は、教職課程の実践的講義の一環であり、受講者には主体的な参画が強く求められる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（教師に求められる指導力と技術、教育方法の理論）</p> <p>第2回：「主体的・対話的で深い学び」について（学習指導要領の展開）</p> <p>第3回：「主体的・対話的で深い学び」について「中学校学習指導要領（平成29年告示）」</p> <p>第4回：「主体的・対話的で深い学び」について「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」と教材・教具、教育評価</p> <p>第5回：授業における効果的な話し方、アクティブ・ラーニングの実践（アクティブ・ラーニングの基礎と情報モラル）</p> <p>第6回：授業における効果的な話し方、アクティブ・ラーニングの実践（教育方法とICTの創造的活用法）</p> <p>第7回：授業における効果的な話し方、アクティブ・ラーニングの実践（場面指導）</p> <p>第8回：授業における効果的な話し方と板書の実践（模擬授業・ブラッシュアップのための討論）</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：文部科学省『魅力ある教員を求めて』、「中学校学習指導要領（平成29年告示）」、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」			
<p>学生に対する評価</p> <p>ミニレポート（50%）、模擬授業（プレゼンテーション）（50%）を総合的に評価する。</p>			

授業科目名： 教育方法と情報技術	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 1単位	担当教員名：石 崎 龍 二 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 教育方法における、情報通信技術・情報機器活用の資質と能力、ならびに教育の目的に適した話法など、授業を実践する上での基礎的な資質と能力を修得する。			
本講義では、基礎的な学習理論を踏まえて、①授業における話し方、板書の方法など、教師として必要な教育の技術、②授業づくりにおける情報通信技術・情報機器の効果的な活用の方法、情報活用能力を育成するための指導方法を実践的に学ぶ。本講義は、教職課程の実践的講義の一環であり、受講者には主体的な参画がとよく求められる。			
授業計画 第1回：教育方法と情報通信技術、ICT 環境、校務処理（ガイダンス） 第2回：授業における学習指導案の作成 学習指導案の構成（目標・内容・展開・まとめ）とデジタル教材 第3回：授業における情報通信機器活用と情報モラル（基本） 第4回：授業における情報通信機器活用（実践）① （ICT 機器、オンライン授業、学習履歴の利活用） 第5回：授業における情報通信機器活用（実践）② （学習指導案、電子教材作成・活用） 第6回：効果的な教育方法の実践 場面指導（教師の話し方、言語環境、板書計画、教材・教具）・集団討論 第7回：授業における情報通信機器活用と情報活用能力を育成する指導実践① 模擬授業（学習指導案の作成と学習形態・評価）・集団討論 第8回：授業における情報通信機器活用と情報活用能力を育成する指導実践② 模擬授業（改善後）・集団討論			
定期試験は実施しない。			
テキスト：授業の中で適宜紹介する。			
参考書・参考資料等：『魅力ある教員を求めて』文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
学生に対する評価：レポート（50%）、プレゼンテーション（50%）			

授業科目名： 生徒指導論B	教員の免許状取得のための 必修科目（高免）（中免）	単位数： 2単位	担当教員名：本 山 智 敬 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：生徒指導の理論、及びその具体的方法について学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義と原理、学校における生徒指導の在り方を説明できる。 ・学校現場における生徒指導上の諸問題の現状とその対応方法について理解できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、生徒指導に関する原理・理論や基本的考え方を学ぶと共に、その具体的方法について理解することを目的としている。児童及び生徒が抱える生徒指導上の課題に対し、教師一人が行うだけでなく、他の教師やスクールカウンセラー、養護教諭との連携や、保護者との協働、学外専門機関との協力体制を構築することが重要である。よって、それらに対応するための学内外の連携、指導体制についても学ぶ。また、生徒の個別の課題に向き合う視点だけでなく、学習指導と並ぶ重要な教育活動として、教育課程における生徒指導の位置づけが理解できるようになることを目指す。</p> <p>さらに、生徒に対し共感的理解の態度でかかわることの重要性を認識すると共に、そうした態度を身につけるべく、カウンセリングの基本姿勢や応答技術について体験的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の意義と課題</p> <p>第2回：生徒指導の進め方と体制づくり</p> <p>第3回：非行の理解と対応</p> <p>第4回：いじめの理解と対応</p> <p>第5回：不登校の理解と対応</p> <p>第6回：その他、今日的な課題への対応</p> <p>第7回：生徒指導の基盤としての共感的理解</p> <p>第8回：個別指導と集団指導</p> <p>第9回：個別指導の具体的方法</p> <p>第10回：集団指導の具体的方法</p> <p>第11回：生徒指導に関する法制度</p> <p>第12回：家庭・地域・関係機関との連携</p> <p>第13回：生徒指導と健康教育</p> <p>第14回：生徒指導とキャリア教育</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト：

『生徒指導提要』（令和4年12月 文部科学省）、
『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）、
『高等学校学習指導要領』（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等：

『新しい生徒指導の手引き』 諸富祥彦著 図書文化社 ISBN978-4-8100-3630-5
『キーワード生徒指導・教育相談・キャリア教育』 小泉令三・友清由希子編著 北大路書房
ISBN978-4-7628-3063-1

学生に対する評価：

<評価基準> 定期試験、課題レポート共に、生徒指導の意義や原理、児童及び生徒が抱える諸問題の現状と対応について自分なりの意見を踏まえて論じることができるかを評価基準とする。

<評価方法> 定期試験（50%）の他、課題レポート（25%）や授業への参加態度（25%）を含め総合的に評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目(高免)(中免)(養免)	単位数： 2単位	担当教員名：岩 橋 宗 哉 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（高等学校 福祉）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育現場において児童や生徒に生じる問題やその背景、及びその支援について説明できる。 2. 子どもや保護者に対して関わっていくときに必要なカウンセリング的な視点について説明できる。 3. 子どもを中心にして、保護者や他の教員等さらに学校外の機関との連携について説明できる。 			
授業の概要			
<p>この講義は、公認心理師、中学教諭、高校教諭、養護教諭を目指す学生を対象とした講義である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童、生徒によくみられる問題やその背景について、発達課題も踏まえた理解やそれへの支援について事例を通して学ぶ。またそれにより、教育現場におけるカウンセリングの基礎的な知識やかかわり方について理解する。 2. 子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。 			
授業計画			
第1回：ガイダンス（本授業の説明と教育相談の意義）			
第2回：カウンセリングに関する基礎的な理論			
第3回：子どもの発達課題への取り組みの理解と援助			
第4回：子どもの教育課題への取り組みの援助			
第5回：スクールカウンセリングの枠組み			
第6回：子どもの多様な援助者によるチーム援助			
第7回：3段階の心理教育的援助サービス			
第8回：発達障害の理解と援助（例を通してカウンセリング的姿勢や援助方法を理解する）			
第9回：不登校の理解と援助(1)（事例を通してカウンセリング的姿勢や援助方法を理解する）			
第10回：不登校の理解と援助(2)（家庭訪問事例を通してカウンセリング的姿勢や援助方法を理解する）			
第11回：いじめの理解と援助（事例を通してカウンセリング的姿勢や援助方法を理解する）			
第12回：非行の理解と非行をする子供の援助（事例を通してカウンセリング的姿勢や援助方法を理解する）			
第13回：学校における危機対応（事例を通して援助方法を理解する）			
第14回：地域ネットワークづくり（各専門機関との連携の意義や必要性を理解する）			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない			

テキスト

『教育・学校心理学』（石隈利紀編、遠見書房）

参考書・参考資料等

『子どもの発達臨床と学校ソーシャルワーク』（古橋啓介・門田光司・岩橋宗哉編、ミネルヴァ書房）

『チーム援助入門』（石隈利紀・村田節子著、図書文化）

『学校現場に役立つ臨床心理学』（菅佐和子・木ノ下隆夫、日本評論社）

『現実に介入しつつ心に関わる』（田嶋誠一、金剛出版）

『生徒指導提要』（令和4年12月 文部科学省）など

学生に対する評価

レポート 40% 授業への参加度 20% 発表内容 40%

授業科目名： キャリア論(進路指導)	教員の免許状取得のための 必修科目 (高免) (中免)	単位数： 2単位	担当教員名：井上奈美子 宮原 清 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (高等学校 福祉)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むキャリア教育のあり方を理解し、自らの職業選択に応用することのできる知見を獲得する。			
授業の概要 進路選択は、個人が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長することを目指す過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動でもある。それを包含するキャリア教育は、教育機関で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択についてキャリアに関する様々な理論をもとに議論する。これによって、将来教員を目指す者にとってはキャリア教育の実践力が身に付き、民間企業や公的機関への就職を目指す者にとっては進路選択に有意義な知識を獲得することができる。なお本講義では履修生主体のアクティブラーニングを行う。授業には一部オンデマンド学習を活用することがあり、オリエンテーションで説明する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション (アクティブラーニングと成績評価の説明、テキスト資料確認)		(担当：井上奈美子)	
第2回：キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導ガイダンス、そしてキャリア教育へ		(担当：井上奈美子)	
第3回：教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育		(担当：宮原 清)	
第4回：中高におけるキャリア教育推進施策の展開		(担当：宮原 清)	
第5回：中高におけるキャリア発達支援、進路指導における個別指導		(担当：宮原 清)	
第6回：中高における主体的進路選択、進路指導における集団指導		(担当：宮原 清)	
第7回：キャリア教育の意義と原理、自己実現過程		(担当：井上奈美子)	
第8回：キャリア教育における地域連携、インターンシップ (職場体験)		(担当：井上奈美子)	
第9回：主体的進路選択と意思決定 (文部科学省提言)		(担当：井上奈美子)	
第10回：キャリア自己効力感－社会認知的キャリア理論、ポートフォリオの活用		(担当：井上奈美子)	
第11回：現実的探索・試行と社会的移行準備		(担当：井上奈美子)	
第12回：職業観・勤労観の確立、キャリア・カウンセリング		(担当：井上奈美子)	
第13回：キャリアと協働、キャリア自己概念		(担当：井上奈美子)	

第 14 回：現代の働き方とその課題、ライフキャリア	(担当：井上奈美子)
第 15 回：キャリア教育を目的とした模擬授業	(担当：井上奈美子)
定期試験は実施せず、定期試験期間中にレポートを課す。	
期末レポート課題：ドナルドスーパーのキャリアロール・キャリアレイ ンボー理論の理解について	
テキスト：適宜資料配布	
参考書・参考資料等：・教育振興基本計画	
・中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）	
・中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）	
・高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）	
学生に対する評価	
・講義中の発言・プレゼン(50%), グループワークへの貢献 (25%) , レポート (25%)	

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中高）		単位数：2単位	担当教員名：八田 信人		
科目	教育実践に関する科目（高等学校 福祉）				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	15人				
教員の連携・協力体制 主担当に加えて、教科に関する専門的事項の科目担当者と連携し協力体制を構築する。					
授業のテーマ及び到達目標 教育に対する使命感や情熱を持ち、対人関係能力、生徒理解と指導力、学級経営能力、ICT活用を含めた教科の教授能力等、教員に求められる基本的な資質能力を身につける。 ・本授業における活動を通して、将来自分が教員になるにあたり、何が課題であるかを自覚して、自ら必要に応じて不足している知識や技能を補い、定着を図ることができる。					
授業の概要 教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科等の指導力およびICT活用に関する事項が身につけているかを確認し、必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図る。そのために、履修カルテ等を活用して、事例研究、ワーク、討論等、主体的な学習を取り入れ、教員としての知識や技能を補うとともに、問題解決能力を養い、教員に求められる基本的な資質能力の向上を目指す。					
授業計画 第1回：教育実習を振り返る（1）学習指導、ICT活用能力（討論）、履修カルテの分析・評価 第2回：教育実習を振り返る（2）生徒指導、ICT活用能力（討論） 第3回：教育実習を振り返る（3）特別支援教育、ICT活用能力（討論） 第4回：教師に求められる資質と条件－学校の中で見えたもの 第5回：教師の倫理観、社会人のモラルについて 第6回：教職の意義と教員の役割、ICT活用能力（討論） 第7回：校務分掌からみる学校経営（社会性と対人関係援助） 第8回：学級経営の在り方 第9回：学校現場の現状と危機管理（1）いじめ対策・不登校（演習／ICTによる報告） 第10回：学校現場の現状と危機管理（2）学校安全・防災（演習／ICTによる報告） 第11回：学校現場の現状と危機管理（3）教員の不祥事（演習／ICTによる報告） 第12回：学校現場の状況理解【外部講師 高等学校】 第13回：学校現場の状況理解【外部講師 特別支援学校】 第14回：未来の教職の課題と課題解決に向けた方策（ロールプレイング） 第15回：教職の意義と教員の役割					
テキスト 特に指定しない。					
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）					
学生に対する評価 レポート（50%）、授業への参加態度・平常点（50%）により総合的に評価する。					

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：八田信人・古賀 なな子 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の歴史的動向、今日の施策や法令および教育課程等の制度的基盤を理解する。 ・インクルーシブ教育の理念を理解し、地域との連携、就学前から卒業後までの連続性のある教育等、共生社会をめざした支援の在り方について理解する。 ・特別なニーズに応じた幼児・児童・生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、その教育的支援の概要について理解する。 			
授業の概要			
<p>特別支援教育の制度の歴史的動向と、それに伴う理念や障害への理解について学び、本邦の特別支援教育の教育課程や制度を学習する。また、自立活動や個別の指導計画など、特別支援教育の基礎的知識教養を身に着けることを目指す。インクルーシブの理念を理解し、特別なニーズに応じた幼児・児童・生徒への包括的な支援の視点を身に着けるため、福祉や医療等の地域との連携、就学前から卒業後まで継続した発達支援について学習する。なお、特別支援教育に関する制度の基礎的理解(第3回～第7回)については八田、それ以外の第1回～第2回、第10回～第15回は古賀が担当する。</p>			
授業計画			
第1回：支援を要する子どもの現状への理解（古賀）			
第2回：インクルーシブ教育、特別支援教育の理念（古賀）			
第3回：特別支援教育の歴史的動向、障害の定義（施策、法令）（八田）			
第4回：障害による差別の禁止、合理的配慮と基礎的環境整備（八田）			
第5回：特別支援教育に関する制度の基礎的理解（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導）（八田）			
第6回：特別支援教育に関する制度の基礎的理解（自立活動、実態把握、個別の指導計画）（八田）			
第7回：特別支援教育に関する制度の基礎的理解（知的障害の教科、重複障害者の教育課程の編成）（八田）			
第8回：特別支援学校の家庭・保護者・地域との連携（センター的機能、保幼小連携など）（古賀）			
第9回：特別支援学校の家庭・保護者・地域との連携（個別の教育支援計画、生涯発達支援）（古賀）			
第10回：他機関との連携とインクルーシブ教育（母子保健、放課後等デイサービスなど）（古賀）			
第11回：特別なニーズに応じた幼児・児童・生徒の理解と支援（発達障害、知的障害）（古賀）			
第12回：特別なニーズに応じた幼児・児童・生徒の理解と支援（病弱・身体虚弱、肢体不自由）（古賀）			
第13回：特別なニーズに応じた幼児・児童・生徒の理解と支援（貧困、日本語習得の困難など）（古賀）			
第14回：通常の学級における特別支援教育（古賀）			

第15回：総括（古賀）

定期試験

テキスト

- ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業内にて、適宜提示する。

学生に対する評価

授業への参加態度（30%）、授業内レポート（30%）、定期試験（40%）

授業科目名：知的障害者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：小嶋 秀幹、菅原 航平
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる心理面及び生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 ・観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解している。 ・家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。 			
授業の概要			
知的障害の心理面及び生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用について事例を用いながら解説すると共に、子ども一人一人の知的機能・適用機能の特性を把握するために必要となる視点やアセスメント方法について解説する。また、家庭や医療機関との連携について事例を通して理解する。			
授業計画			
第1回：知的障害の心理学的基礎（菅原）			
第2回：知的障害の生理学的基礎や病理と併存症・合併症（小嶋）			
第3回：知的障害児の感覚・運動機能とそのアセスメント（菅原）			
第4回：知的障害児の注意・記憶機能や学習とそのアセスメント（菅原）			
第5回：知的障害児の言語・コミュニケーションとそのアセスメント（菅原）			
第6回：発達・知能検査を用いた知的機能のアセスメントと検査結果の活用（菅原）			
第7回：知的障害児の家庭や学校、地域での生活（適応行動）とそのアセスメント（菅原）			
第8回：知的障害児の保護者に対する支援や関係機関との連携（菅原）			
定期試験			
テキスト			
勝二博亮（2022）知的障害児の心理・生理・病理 北大路書房			
参考書・参考資料等			
市川奈緒子（2021）家庭と保育園・幼稚園で知っておきたい知的障害 ミネルヴァ書房			
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018			
特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成29年4月告示）、文部			

科学省、開隆堂出版、2018

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（平成29年4月告示）、文部科学省、開隆堂出版、2018

学生に対する評価

授業の参加態度や課題の提出状況（30%）、レポート課題（30%）、定期試験（40%）

授業科目名：肢体不自由者の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高島英昭、阪木啓二 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由の発達の遅れ及び活動や適応行動の困難さの要因となる心理面及び生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 ・ 観察や検査を通して肢体不自由のある幼児、児童又は生徒一人一人の運動機能の状態や適応行動の困難さを把握する方法等を理解している。 ・ 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由心理面及び生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用について事例を用いながら解説すると共に、子ども一人一人の身体・運動機能の特性を把握するために必要となる視点やアセスメント方法について解説する。また、家庭や医療機関との連携について事例を通して理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由者の起因疾患①生物学的基礎（高島） 第2回：肢体不自由者の起因疾患②脳原性疾患（高島） 第3回：肢体不自由者の起因疾患③末梢神経疾患、脊髄疾患（高島） 第4回：肢体不自由者の心理①認知の発達（阪木） 第5回：肢体不自由者の心理②学習行動の発達（阪木） 第6回：肢体不自由者の心理③のコミュニケーションの発達（阪木） 第7回：肢体不自由者の心理④対人関係・社会適応の発達（阪木） 第8回：肢体不自由者の心理⑤情緒・心理的安定の発達（阪木）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>教科書は指定せず、適宜プリントの配布や参考図書の紹介を行う。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成29年4月告示）、文部科学省、開隆堂出版、2018</p>			

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（平成29年4月告示）、文部科学省、開隆堂出版、2018

学生に対する評価

授業の参加態度や課題の提出状況（30%）、レポート課題（30%）、定期試験（40%）

授業科目名：病弱者の 心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小嶋秀幹、小 山憲一郎、古賀なな子、 深澤（矢内）美華恵 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 ・病弱児の主要な疾患や生理・病理、心理的特徴を学習し、教育上の配慮事項、心理的対応を 理解することで、適切な支援につなげることができる。			
授業の概要 病弱児教育において出会う小児疾患のうち、アレルギー疾患、呼吸器疾患、小児がんや白血病、生活習慣病、そのほか内部疾患、および心身症や精神疾患、発達障害について、それぞれの生理・病理に関する基礎的理解について解説する。また、病弱児教育の事態、心理的特徴について概観し、病弱者への心理的支援について考える。さらに、在宅ケア、医療的ケア、関係機関や家庭との連携および支援について学ぶ。			
授業計画 第1回：病弱児教育対象児童生徒の実態（深澤、古賀） 第2回：病弱児特有の心理状態および支援（深澤、古賀） 第3回：アレルギー疾患、呼吸器疾患、悪性新生物、小児がん、白血病（小嶋） 第4回：内分泌・代謝性疾患、消化器疾患、心疾患など（小嶋） 第5回：神経系疾患（てんかん、ダウン症、筋ジストロフィーなど）、発達障害（小山） 第6回：肥満症、心身症、精神疾患（摂食障害、統合失調症など）（小山） 第7回：病弱・虚弱児の家庭との連携、保護者・きょうだい等への心理的支援（古賀） 第8回：病弱・虚弱児と関係機関、福祉等の連携および支援（古賀）			
定期試験			
テキスト 授業中に適宜示す。			
参考書・参考資料等 ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）、文部科学省、開隆堂出版、2018			

・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) (平成30年3月)、文部科学省、開隆堂出版、2018

学生に対する評価

授業の参加態度や課題の提出状況 (30%)、レポート課題 (30%)、定期試験 (40%)

授業科目名： 知的障害者の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：八田信人 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がいのある児童生徒等の特性や指導・支援の基本的な在り方について理解をする。 ・知的障害のある児童生徒に対する教育課程、カリキュラム・マネジメントについて理解をする。 			
授業の概要			
<p>知的障害のある児童生徒等の特性や基本的な関わり方、教育課程、指導方法について学習をする。知的障害教育において一人一人の主体的な力や個性の発揮の実現をめざすための教育内容と実践方法（遊びの指導、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習）については、指導形態の特色、指導事例、実践上のポイントを取り上げ教育内容・方法についての理解を深める。自立活動については、児童生徒のアセスメント、具体的指導内容の工夫について学習する。また、教育課程に関しては教育課程全体を俯瞰し、よりよい教育内容・方法の改善を図るためのカリキュラム・マネジメントについても取り上げる。</p> <p>その他、児童生徒の指導内容・方法の設定に関わる関係機関との連携、家族支援、キャリア教育等については、それぞれの支援等の内容・方法について学習するとともに、個別の教育支援計画、個別の移行支援計画と関連させ、学校における日々の指導・支援の実践で活用する方法について学習する。また、指導方法としては、学習理論をとりあげ、課題分析、指導プログラムの作成、望ましい関わり方などの指導・支援技法について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：知的障害のある幼児児童生徒の教育の現状と教育の特質			
第2回：知的障害教育の基本的な考え方と教育課程			
第3回：①日常生活の指導・遊びの指導			
第4回：②生活単元学習			
第5回：③作業学習			
第6回：④教科別の指導			
第7回：⑤自立活動			
第8回：⑥キャリア教育と職業教育			
第9回：⑦重複障害のある児童生徒の指導			
第10回：知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントと授業改善			

第11回：関係機関との連携及び家族支援 第12回：個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画の作成・活用・評価 第13回：指導・支援技法（1）特性に応じた環境調整・教材教具 第14回：指導・支援技法（2）授業設計、学習指導案の作成 第15回：知的障害教育における学校・教師の役割と使命 定期試験
テキスト ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省） ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省） ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 授業内にて、適宜提示する
学生に対する評価 授業への参加態度（30%）、授業内レポート（30%）、定期試験（40%）

授業科目名：肢体不自由者の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：一木 薫 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由児の障害の状態や特性、指導時の配慮事項等について理解し、肢体不自由児を対象とした授業設計や特別支援学校（肢体不自由）における教育課程の編成、カリキュラム・マネジメントの考え方について理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由の起因疾患や想定される学習上又は生活上の困難、教科指導における配慮事項について概説するとともに、必要な関係機関との連携について考える。また、多様な個々の実態に即した授業設計や教育課程編成、個別の指導計画と連結したカリキュラム・マネジメントの考え方について概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由教育の歴史・制度（肢体不自由教育の萌芽・成立、養護学校教育義務制の実施）</p> <p>第2回：教育課程と個別の指導計画、授業の関係</p> <p>第3回：各教科の指導における配慮事項</p> <p>第4回：肢体不自由のある子どもの授業設計（1）各教科、同単元異目標</p> <p>第5回：肢体不自由のある子どもの授業設計（2）個別の指導計画と年間指導計画</p> <p>第6回：肢体不自由のある子どもの授業設計（3）自立活動の指導（実態把握から指導目標の設定、内容選定から指導内容の設定）</p> <p>第7回：肢体不自由教育における教育課程編成の実際と背景、特別支援学校（肢体不自由）におけるカリキュラム・マネジメント</p> <p>第8回：肢体不自由教育を担う教師の専門性と現職研修、インクルーシブ教育システムと肢体不自由特別支援学校の使命</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育（特別支援教育をつなぐ Connect & Connect 2）、安藤隆男（監修）一木薫（編著）、北大路書房、2024 ・特別支援学校 幼稚園教育要領／小学部・中学部学習指導要領／高等部学習指導要領、文部科学省、2018 ・特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）、文部科学省、2018 			

- ・特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）、文部科学省、2018
- ・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）、文部科学省、2018

参考書・参考資料等

- ・自立活動の理念と実践、古川勝也・一木薫（編著）、ジアース教育新社、2016
- ・肢体不自由のある子どもの教科指導Q&A、筑波大学附属桐が丘特別支援学校（編）、ジアース教育新社、2008
- ・「わかる」授業のための手だて、筑波大学附属桐が丘特別支援学校（編）、ジアース教育新社、2011
- ・障害の重い子どもの目標設定ガイドー授業における「学習到達度チェックリスト」の活用ー、徳永豊（編著）、慶應義塾大学出版会、2014
- ・障害の重い子どもの発達理解ガイドー教科指導のための「段階意義の系統図」の活用ー、徳永豊・田中信利（編著）、慶應義塾大学出版会、2019
- ・重度・重複障害児の対人相互交渉における共同注意ーコミュニケーション行動の基盤についてー、徳永豊、慶應義塾大学出版会、2009
- ・重度・重複障害教育におけるカリキュラム評価ー自立活動の課題とカリキュラム・マネジメント、一木薫、慶應義塾大学出版会、2020

学生に対する評価

授業の到達目標に照らした修得状況により評価します。授業の理解度を評価するために、学期末に試験を課します。成績は、授業時に課すレポートを30%、学期末試験を70%として、これらを合わせて総合的に評価します。

授業科目名： 病弱者の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 深澤（矢内） 美華恵 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・病弱児教育のそれぞれの場において教育課程が有する意義を理解し、対象児童生徒の実態や教育実践に則した教育課程編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方を説明することができる。 ・病気や障害の状態、特性、及び心身の発達段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項を理解するとともに、自立活動や自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を設定した授業設計を行う方法を身に付けている。 			
授業の概要			
<p>我が国の病弱児教育制度の現在を概観した上で、小児医療や教育の変化に伴い生じている課題や今後の展望を学習する。その上で、病弱児の心理発達の側面を発達段階に則して学習し、実態把握のための視点を身に付ける。さらに、特別支援学校（病弱）や特別支援学級（病弱・身体虚弱）等の教育課程やカリキュラム・マネジメントの考え方を学習し、教育実践に関する理解を深める。最後に、対象児童生徒の病気に関する生理・病理面の理解と、それぞれの発達上、学習上の特性や心理特性を、発達心理学等の観点から理解し、対象児の実態に合わせた各教科の指導及び自立活動の指導について授業設計を行うための方法を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：病弱教育の意義、教育形態・教育制度			
第2回：病弱児教育における教育課程の編成・カリキュラム・マネジメント			
第3回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）①アレルギー性疾患等			
第4回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）②小児がん等			
第5回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）④心臓疾患、腎疾患・糖尿病等			
第6回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）⑤心身症・精神疾患等			
第7回：病弱児教育における個別の指導計画、自立活動の指導			
第8回：病弱児教育の展望と課題、確認テスト			
定期試験			
テキスト			
・配付資料			

- ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）、文部科学省、開隆堂出版、2018
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）、文部科学省、開隆堂出版、2018

参考書・参考資料等

- ・標準「病弱児の教育」テキスト、日本育療学会、ジアース教育新社、2019
- ・病弱教育における各教科等の指導、全国特別支援学校病弱教育校長会、2015
- ・病気の子どもの教育入門、全国病弱教育研究会、クリエイツかもがわ、2013
- ・病気の子どものガイドブック、全国特別支援学校病弱教育校長会編著、ジアース教育新社、2012

その他授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業における発言や毎時のリアクションペーパーの内容等の授業への貢献度を10%、中間レポート又は中間テスト（1回）を40%、確認テスト（又はレポート）を50%として、これらを合わせて総合的に評価する。

授業科目名： 知的障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：菅原航平、古賀 なな子、八田信人 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる心理面及び生理面、病理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 ・観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解している。 ・家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。 ・特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解している。 ・知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科や自立活動等の指導における配慮事項について理解している。 			
授業の概要			
<p>知的障害の心理・生理・病理面の特徴について解説すると共に、子ども一人一人の知的機能・適応機能を把握して支援・指導を行うための視点について解説する。また、家庭や関係機関との連携について理解する。それらの知識を踏まえて、知的障害に関するカリキュラム・マネジメントや具体的な指導、インクルーシブな教育について概説する。</p>			
授業計画			
第1回：知的障害の教育・医学・福祉における定義やその変遷（菅原）			
第2回：知的障害の心理・生理・病理と教育実践（菅原）			
第3回：知的障害児の認知やコミュニケーションの特性に配慮したICTやAACを活用した支援・指導（菅原）			
第4回：知的障害に対する多様な支援方法の理解（古賀）			
第5回：知的障害児の保護者・関係機関と連携した支援（古賀）			
第6回：個別の指導計画の作成及び評価と教育課程の評価・改善（八田）			
第7回：日常生活に結び付いた具体的な活動による学習（八田）			
第8回：特別支援学級や通常の学級における知的障害教育（八田）			
定期試験			

テキスト

- ・太田俊己・佐藤慎二（2020）知的障害教育総論〔改訂新版〕 NHK出版

参考書・参考資料等

- ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）、文部科学省、開隆堂出版、2018
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）、文部科学省、開隆堂出版、2018

学生に対する評価

授業の参加態度や課題の提出状況（30%）、レポート課題（30%）、定期試験（40%）

授業科目名：発達・重複障害者教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：八田信人、菅原航平、小山憲一郎、梶原由紀子
			担当形態：オムニバス
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：発達、含む領域：重複）		
授業のテーマ及び到達目標 ・発達障害や重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解する。 ・発達障害や重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 ・通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程が有する意義を理解するとともに、特別支援学校が特別支援教育のセンターとしての助言又は援助の役割を果たす必要性について理解する。			
授業の概要 発達障害及び重複障害の状態や発達、特性、必要とされる生活支援や医療なケアなどについて学ぶとともに、特別支援学校に加えて特別支援学級や通級による指導も含めて教育課程編成やカリキュラム・マネジメント、特別支援学校のセンターとしての役割などについて学ぶ。また、各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動や自立活動の指導と関連付けた授業設計などを学ぶ。			
授業計画 第1回：発達障害や重複障害の理解と特別支援教育の役割、医療・福祉・教育分野での理解とその差異（八田・菅原） 第2回：発達障害による二次的な障害の予防、家庭や関係機関と連携した切れ目のない支援（菅原） 第3回：発達障害・重複障害の特性と医学的な理解（小山） 第4回：発達障害・重複障害の神経心理学的理解とアセスメント（小山） 第5回：自閉スペクトラム症や情緒障害、言語障害の教育課程と指導の実際（八田） 第6回：注意欠如多動症・限局性学習症の教育課程と指導の実際（八田） 第7回：重複障害の教育課程と指導の実際（八田）			

第8回：重度・重複障害児の日常生活支援や医療的ケアの実際（梶原）

定期試験

テキスト

授業内で適宜提示する

参考書・参考資料等

- ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

授業への参加態度（30%）、授業内レポート（30%）、定期試験（40%）

授業科目名： 視覚障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：門脇 弘樹 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害教育に関する基本的事項を理解し、視覚障害のある幼児児童生徒への具体的な支援方法を説明できる。			
授業の概要 視覚障害教育の歴史や制度などを概観した上で、特別支援学校における教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について講義する。また、視覚障害の特性に応じた指導について自立活動および各教科等の指導の視点から講義する。			
授業計画 第1回：視覚障害に関する心理・生理・病理学的特徴 第2回：視覚障害教育の歴史・制度 第3回：視覚障害教育における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント 第4回：視覚障害教育における個別の指導計画と年間指導計画の作成 第5回：視覚障害の特性に応じた指導の考え方 第6回：自立活動の指導（1）点字 第7回：自立活動の指導（2）歩行 第8回：各教科等の指導におけるICTや教材・教具の活用 定期試験			
テキスト 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 ・香川邦生編著:猪平眞理、大内進、牟田口辰己共同執筆 ・視覚障害教育に携わる方のために（五訂版） 慶應義塾大学出版会 2016 ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年			

3月)、文部科学省、開隆堂出版、2018

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) (平成30年3月)、文部科学省、開隆堂出版、2018

学生に対する評価 期末試験 (100%)

授業科目名： 聴覚障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：喜屋武 睦 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴）		
授業のテーマ及び到達目標 ・聴覚障害の生理病理的な知識を得る。 ・聴覚障害児の発達やその課題について理解する。 ・聴覚障害に配慮した指導の在り方について考えることができる。			
授業の概要 聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知るとともに、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。さらに、聴覚障害が発達に及ぼす影響を知り、障害特性に応じた教育について知見を得ることを目的とする。			
授業計画 第1回：聴覚障害とは？ 第2回：聴覚障害児教育の歴史(世界・日本) 第3回：聴覚障害児教育の制度 第4回：聴覚障害が発達に及ぼす影響 第5回：聴覚障害児の言語指導 第6回：聴覚障害の早期発見と保護者支援 第7回：聞こえとコミュニケーション 第8回：聴覚障害者教育に関する今日的課題 定期試験			
テキスト 基本的にプリント教材を使用して学習を進める			
参考書・参考資料等 ・改訂版 中野善達・根本匡文編著 聴覚障害の基本と実際. 田中出版 ・藤田郁代編著 聴覚障害学 第2版. 医学書院 他の図書については授業内で紹介する ・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）、文部科学省、海文堂出版、2018 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年			

3月)、文部科学省、開隆堂出版、2018

- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) (平成30年3月)、文部科学省、開隆堂出版、2018

学生に対する評価 授業への参加度25%、レポート試験75%とし、総合評価60点以上を合格とする。